

○ 水の汚れ	p. 16
○ 土砂による水の濁り（陸域）	p. 19
○ 土砂による水の濁り（海域）	p. 23
○ 地下水の水質	p. 28
○ ウミガメ類	p. 31
○ サンゴ類	p. 35
○ 海藻草類	p. 49
○ ジュゴン	p. 69
○ 海域生物（トカゲハゼ）	p. 85
● 陸域動物（陸生動物）	p. 89
○ 陸域動物（河川水生動物）	p. 108
○ 陸域植物	p. 111
○ 陸域生態系（基盤環境、生態系の機能と構造）	p. 114
○ 陸域生態系（地域を特徴づける注目種）	p. 129

陸域動物(陸生動物)

○ 重要な動物種の移動

- 埋立土砂発生区域Aブロック及びBブロック(移動元)において、移動対象となっている爬虫類1種(オキナワキノボリトカゲ)、昆虫類1種(イワカワシジミ^{注)})、クモ類2種(キノボリトタテグモ、キシノウエトタテグモ属)、陸産貝類12種(オキノエラブヤマトガイ、ヤマタニシ属、ヤンバルゴマガイ、ホソアシヒダナメクジ科、リュウキュウノミガイ、ノミガイ、スナガイ、キバサナギガイ、オオカサマイマイ、キヌツヤベッコウ属、エイコベッコウ、パンダナマイマイ)、オカヤドカリ類2種(ムラサキオカヤドカリ、オカヤドカリ)の生息が確認されたことから、工事着手前に移動を行った。

注) 幼虫による食痕跡が確認されたにとどまり、幼虫や蛹は確認されなかった。

移動先における移動状況

No.	分類群	和名	個体数	移動先	備考
1	爬虫類	オキナワキノボリトカゲ	13	※ 重要な種の保護の観点から表示していません	幼体含む
2	クモ類	キノボリトタテグモ	5		成体のみ
3		キシノウエトタテグモ属	5		幼体含む
4	陸産貝類	オキノエラブヤマトガイ	21		幼貝含む
5		ヤマタニシ属	51		幼貝含む
6		ヤンバルゴマガイ	20		幼貝含む
7		ホソアシヒダナメクジ科	2		幼貝含む
8		リュウキュウノミガイ	2		幼貝含む
9		ノミガイ	565		成体のみ
10		スナガイ	3		幼貝含む
11		キバサナギガイ	5		幼貝含む
12		オオカサマイマイ	74		幼貝含む
13		キヌツヤベッコウ属	2		幼貝含む
14		エイコベッコウ	5		幼貝含む
15		パンダナマイマイ	10		幼貝含む
16	オカヤドカリ類	ムラサキオカヤドカリ	1		成体のみ
17		オカヤドカリ	8		成体のみ
合計		17種	792個体		—

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。



移動対象種の確認状況

- 重要な動物種の移動後の生息状況(1/3): 陸産貝類(移動先) ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。
- 移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。には平成29年度冬季、平成30年度春季、令和3年度秋季、令和4年度春季～冬季、令和5年11、12月、令和6年3月、令和7年1、3月、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。には令和5年12月、令和6年3月、令和7年1、3月、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。には令和5年11、12月、令和6年3月、令和7年1、3月、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。には令和5年11、12月、令和6年3月、令和7年1、3月、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。には令和3年度秋季、令和4年度春季～冬季、令和7年3月に重要な種(陸産貝類)の移動を行った。
 - 令和6年度の移動後の四季調査において、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。では合計5目18科36種(うち15種が重要な種)、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。では合計6目16科28種(うち10種が重要な種)、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。では合計4目12科22種(うち9種が重要な種)、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。では合計4目15科30種(うち12種が重要な種)、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。では合計4目13科26種(うち9種が重要な種)の陸産貝類を確認した。
 - 移動を行った種のうち、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。ではオキノエラブヤマトガイ、ヤマタニシ属、ヤンバルゴマガイ、ノミガイ、キバサナギガイ、オオカサマイマイ及びパンダナマイマイ、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。ではオキノエラブヤマトガイ、ヤンバルゴマガイ、オオカサマイマイ、ベッコウマイマイ及びパンダナマイマイ、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。ではキヌツヤベッコウ属、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。ではヤンバルゴマガイ、オオカサマイマイ及びエイコベッコウ、移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。ではリュウキュウノミガイ、ノミガイ、スナガイ及びキバサナギガイが令和6年度の移動後の四季調査において確認された。



移動先で確認した重要な陸産貝類の例

移動先における陸産貝類相の状況(令和6年度春季～冬季)(1/2)

No.	目名	科名	和名	重要種	確認状況				
					※ 重要な種の保護の観点から表示していません。				
1	アマオブネ	ヤマキサゴ	オキナワヤマキサゴ		○	○	○		
2	ヤマタニシ	ヤマタニシ	オキノエラブヤマトガイ	●	17	6	1	7	
3			アオミオカタニシ	●	647	20	15	18	
4			ヤマタニシ属	●	1,037			4	
5			ミジンヤマタニシ		○	○	○		
6			ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	●	409	126		324
7		オオシマゴマガイ	●			141			
8	エゾタマキビ	クビキレガイ	クビキレガイ					○	
9			カガヨイクビキレ	●				14	
10		カワザンショウ	ウスイロオカチグサ		○	○		○	
-			カワザンショウ科の一種					○	
11	オカミミガイ	オカミミガイ	ナガケンガイ	●		68		12	
12			クロヒラシイノミ	●					11
13			ツヤハマシイノミガイ						○
14			スジハマシイノミガイ						○
15			ハマシイノミガイ						○
16	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ				○	○	
17		ホソアシヒダナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	●	2	1		3	
18	マイマイ	アフリカマイマイ	ホソオカチョウジガイの一種		○	○		○	
19			オカチョウジガイの一種		○	○	○	○	
-			オカチョウジガイ属(稚貝)		○	○		○	
20	ハワイマイマイ		リュウキュウノミガイ	●				4	
21			ノミガイ	●	6,521				499
22	スナガイ		スナガイ	●	34	1		35	
23			シモチキバサナギガイ		○				○
24	タワラガイ		ソメワケタワラガイ					○	
25	ミジンマイマイ		マルナタネ		○	○		○	
26	キバサナギガイ		キバサナギガイ	●	14			10	
27	キセルガイ		ノミギセル			○			
28			ツヤギセル		○	○	○	○	
29	エゾエンザ		ヒメコハクガイ		○				
30	カサマイマイ		オオカサマイマイ	●	226	145	7	29	
31	シタラ		マルキビ近似種	●	1				2
32			ハリマキビ近似種		○				○
33			ナハキビ		○	○	○	○	○
34			ヒメカサキビ	●	1			8	4
35			コスジキビ		○				
36			コシタカシタラ		○	○			○
37			ヒラシタラ				○		○
38			マルシタラ		○				○
39			キヌツヤベッコウ属	●	13	11	12	1	
40			ヒメベッコウ		○	○	○	○	○

移動先における陸産貝類相の状況(令和6年度春季～冬季)(2/2)

No.	目名	科名	和名	重要種	確認状況				
					※ 重要な種の保護の観点から表示していません。				
41	マイマイ	シタラ	エイコベッコウ	●	1			1	
42		ベッコウマイマイ	オキナワベッコウ		○	○	○	○	
43			ベッコウマイマイ	●		2	1		
-			シタラ科orベッコウマイマイ科(稚貝)			○			
44		マラッカベッコウガイ	アジアベッコウ		○	○	○	○	○
45			ヒラコウラベッコウガイ				○		
46		ナメクジ	ヤンバルヤマナメクジ		○	○	○	○	
-			ナメクジ科の一種			○			
47		ナンバンマイマイ	シュリマイマイ種群		○	○	○	○	○
48			オキナワヤマタカマイマイ種群	●	35		8	3	
49			ウロコケマイマイ	●				1	
50			オナジマイマイ		○	○		○	○
51			パンダナマイマイ	●	31	8		2	11
52			オキナワウスカワマイマイ		○	○	○	○	○
-		旧オナジマイマイ科(稚貝)			○	○	○	○	
合計	6目	22科	52種	22種	5目18科36種	6目16科28種	4目12科22種	4目15科30種	4目13科26種

注)1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。

- ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
- ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
- ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
- ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)

2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。

- 重要な動物種の移動後の生息状況(2/3): 爬虫類(移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。)
- 令和3年度秋季、令和4年度春季～冬季、令和5年11、12月、令和6年3月、令和7年1、3月に重要な動物種(爬虫類)の移動を行った。
 - 令和6年度の移動後の四季調査では、合計2目5科5種の爬虫類を確認し、うち1種が重要な種であった。移動を行ったオキナワキノボリトカゲは移動後の調査において確認された。

移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における爬虫類相の状況(令和6年度春季～冬季)

No.	目名	科名	和名	重要種	確認状況	
					<small>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</small>	<small>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</small>
1	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ			○
2	トカゲ	ヤモリ	ミナミヤモリ		○	
3		アガマ	オキナワキノボリトカゲ	●	18	14
4		カナヘビ	アオカナヘビ		○	○
5		ナミヘビ	アカマタ		○	○
合計	2目	5科	5種	1種	1目4科4種	2目4科4種

- 注)1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
- 文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 - 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 - 「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 - 「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 - 「第3版 レッドデータおきなわ一動物編一」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。



オキナワキノボリトカゲ

移動先で確認した重要な爬虫類

- 重要な動物種の移動後の生息状況(3/3):クモ類(移動先※重要な種の保護の観点から表示していません。)
- 令和5年11、12月、令和6年3月に重要な動物種(クモ類)の移動を行った。
 - 令和6年度の移動後の四季調査では、合計1目11科26種のクモ類を確認し、うち3種が重要な種であった。移動を行ったキノボリタテグモ及びキシノウエタテグモ属は移動後の調査において確認された。

移動先※重要な種の保護の観点から表示していません。におけるクモ類相の状況(令和6年度春季～冬季)

No.	目名	科名	和名	重要種	確認状況	
					<small>※重要な種の保護の観点から表示していません。</small>	<small>※重要な種の保護の観点から表示していません。</small>
1	クモ	ハラフシグモ	キムラグモ類	●	155	84
2		トタテグモ	キノボリタテグモ	●	14	7
3			キシノウエタテグモ属	●	1	2
4		ヒメグモ	トビジロイソウロウグモ		○	
5			ミナミノアカイソウロウグモ		○	○
6			オナガグモ		○	○
7			ギボシヒメグモ		○	
8			ムラクモヒシガタグモ			○
9		コガネグモ	クロホシミジグモ		○	
10			ミナミノシマゴミグモ		○	○
11			ギンナガゴミグモ		○	○
12			オオジョロウグモ		○	○
-		アシナガグモ	コガネグモ科(幼体)		○	
13			オオシロカネグモ		○	○
-			シロカネグモ属(幼体)		○	○
14		ハグモ	タニカワアシナガグモ		○	
15			シマカレハグモ		○	
16		アシダカグモ	アシダカグモ		○	
17			オキナワカワリアシダカグモ		○	○
18		シボグモ	シボグモ		○	○
19		ササグモ	シマササグモ		○	○
20		カニグモ	イボカニグモ		○	○
21			ダイダイエビスグモ		○	
22			ホシズナワカバグモ		○	○
-			カニグモ科(幼体)		○	
23		ハエトリグモ	アダソンハエトリ		○	
24	タテスジハエトリ			○	○	
25	アジアマカドハエトリ			○	○	
26	ムナビロアリグモ			○		
-		ハエトリグモ科(幼体)		○	○	
合計	1目	11科	26種	3種	1目11科25種	1目10科17種

- 注)1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
- 文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 - 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 - 「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 - 「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 - 「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。



キノボリタテグモ(巣跡)

移動先で確認した重要なクモ類

- 鳥類の営巣状況: 変更区域及びその周辺での鳥類の営巣等の繁殖状況の調査を実施した。
- ・ 令和6年度は春季にツミ(リュウキュウツミ)、夏季にエリグロアジサシの計2種の繁殖を確認した。

鳥類繁殖確認状況

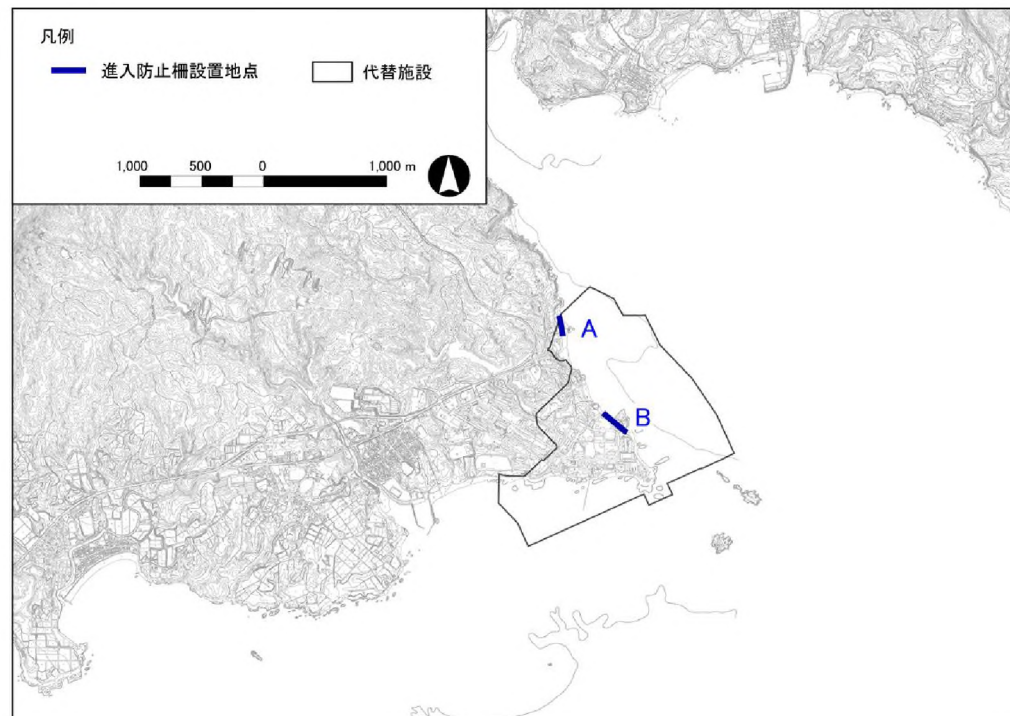
和名	令和6年度			
	春季	夏季	秋季	冬季
エリグロアジサシ	—	抱卵(7巣)、抱雛(7巣: 幼鳥2個体・雛8個体)を確認した。	—	—
ツミ(リュウキュウツミ)	巣を1箇所を確認した。	幼鳥3個体を1箇所を確認した。	—	—

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

- 進入防止柵の設置効果(令和6年度4回/年(各季))
- ・ 進入防止柵の内外において、甲殻類2種(ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ)を確認した。
 - ・ 調査期間をとおして進入防止柵の外側の確認個体が多くなっていることから、進入防止柵の設置は有効であることが確認できた。また、進入防止柵の設置によって、甲殻類のオカヤドカリ類の進入を防止した。

進入防止柵の設置効果

調査地点	分類群	和名	令和6年度							
			春季		夏季		秋季		冬季	
			柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外	柵内	柵外
A	甲殻類	ムラサキオカヤドカリ	6	11	6	13	1	3		1
		ナキオカヤドカリ	1	22		11		1	1	3
	合計	7	33	6	24	1	4	1	4	
B	甲殻類	ムラサキオカヤドカリ		4		2				
	合計	0	4	0	2	0	0	0	0	



進入防止柵の設置地点

- 重要な動物種の移動後の生息状況(1/7): 陸産貝類(移動先)
※ 重要な種の保護の観点から表示していません。
- 移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前、移動後の調査では、6目23科48種の陸産貝類を確認し、うち19種が重要な種であった。移動を行ったオキノエラブヤマトガイ、ヤマタニシ属、ヤンバルゴマガイ、リュウキュウノミガイ、ノミガイ、キバサナギガイ、オオカサマイマイ及びパンダナマイマイは、移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。
 - 移動先3箇所における確認状況は、移動前19種、移動後20~39種と、移動後は移動前よりも多くの種数が確認された。

移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況(1/2)

No.	目名	科名	和名	重要種	工事中									
					工事前 H29冬	H29冬	H30春~冬	R1春~冬	R2春~冬	R3春~冬	R4春~冬	R5春~冬	R6春~冬	
1	アマオブネ	ヤマキサゴ	オキナワヤマキサゴ					○	○	○	○	○	○	
2	ヤマタニシ	ヤマタニシ	ケハダヤマトガイ種群	●	1		4							
3			オキノエラブヤマトガイ	●				15	7	10	4	20	17	
4			アオミオカタニシ	●	57	28	256	744	733	1,272	1,238	1,106	647	
5			ヤマタニシ属	●	7	4	99	215	231	326	512	662	1,037	
6			ミジンヤマタニシ					○	○	○	○	○	○	
7			ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	●	28	34	327	349	388	421	383	328	409
8			エゾタマキビ	カワザンショウ	ウスイロオカチグサ		○	○	○	○	○	○	○	○
9	オカミミガイ	オカミミガイ	ナガケシガイ	●			55	33	8	13	21			
10	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ					○	○	○				
11		ホソアシヒダナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	●			1	1	5	3	3	5	2	
12	マイマイ	アフリカマイマイ	ホソオカチョウジガイの一種				○	○	○	○	○	○	○	
13			オカチョウジガイの一種		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
-			オカチョウジガイ属(稚貝)				○	○	○	○	○	○	○	
14	オカモノアラガイ	オカモノアラガイ	リュウキュウオカモノアラガイ								○			
15			ケショウオカモノアラガイ							○				
16	サナギガイ	チャーリーサナギモドキ						○						
17	ハワイマイマイ	リュウキュウノミガイ	ノミガイ	●						44	149	60		
18			スナガイ	●	1,463	2,991	17,316	48,886	44,300	40,559	37,495	18,025	6,521	
19	スナガイ	スナガイ	シモチキバサナギガイ	●	2	4	23	17	71	41	40	28	34	
20			マルナタネ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	
21	ミジンマイマイ	マルナタネ		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
22	キバサナギガイ	キバサナギガイ	キバサナギガイ属(稚貝)	●					1	4	1	12	14	
-			キセルガイ	ノミギセル		○	○	○		○				
23	キセルガイ	ツヤギセル			○	○	○	○	○	○	○	○		
24			コハクガイ	コハクガイ								○		
25	エゾエンザ	ヒメコハクガイ								○	○	○		
26	コハクガイ上科	コハクガイ上科の一種		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
27	カサマイマイ	オオカサマイマイ	●	2	24	90	171	203	183	156	179	226		
28	シタラ	マルキビ近似種	●									1		

移動先 ※ 重要な種の保護の観点から表示していません。 における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況(2/2)

No.	目名	科名	和名	重要種	工事前	工事中								
					H29冬	H29冬	H30春～冬	R1春～冬	R2春～冬	R3春～冬	R4春～冬	R5春～冬	R6春～冬	
29	マイマイ	シタラ	ハリマキビ近似種							○	○	○	○	○
30			ナハキビ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
31			ヒメカサキビ	●						6	10	13	3	1
32			コスジキビ						○	○	○	○	○	○
33			ボニキビ	●							1	5		
34			コシタカシタラ							○	○	○		○
35			ヒラシタラ					○	○	○	○	○		
36			マルシタラ							○	○	○	○	○
37			キヌツヤベッコウ属	●				7	18	33	8	15	13	13
38			ヒメベッコウ							○	○	○	○	○
39			エイコベッコウ	●						1	1	2		1
40			ベッコウマイマイ	オキナワベッコウ				○	○	○	○	○	○	○
-				シタラ科orベッコウマイマイ科(稚貝)										○
41			マラッカベッコウガイ	アジアベッコウ			○	○	○	○	○	○	○	○
42			ナメクジ	ナメクジ						○	○	○	○	
43				ヤンバルヤマナメクジ					○	○			○	○
-				ナメクジ科の一種								○		○
44			ナンバンマイマイ	シュリマイマイ種群			○	○	○	○	○	○	○	○
45				オキナワヤマタカマイマイ種群	●			1	6	10	10	25	54	53
46		オナジマイマイ				○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	パンダナマイマイ	●			1	2	51	38	6	8	20	15	31	
48	オキナワウスカワマイマイ						○	○	○	○	○	○	○	
-		旧オナジマイマイ科(稚貝)				○	○	○	○	○	○	○		
合計	6目	23科	48種	19種	19種	20種	21～25種	25～28種	29～34種	28～34種	34～39種	27～33種	27～31種	

- 注)1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
- ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 - ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 - ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 - ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 - ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

- 重要な動物種の移動後の生息状況(2/7): 陸産貝類(移動先)[※]
- 移動先[※]における移動前、移動後の調査では、6目17科32種の陸産貝類を確認し、うち12種が重要な種であった。移動を行ったオキノエラブヤマトガイ、ヤンバルゴマガイ、ホソアシヒダナメクジ科、オオカサマイマイ、ベッコウマイマイ及びパンダナマイマイは、移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。
 - 移動先[※]における確認状況は、移動前19種、移動後13~21種となり、移動前と移動後は同程度の種数であった。

移動先[※]における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事中		
					工事前 R5秋	R5冬	R6春~冬
1	アマオブネ	ヤマキサゴ	オキナワヤマキサゴ			○	
2	ヤマタニシ	ヤマタニシ	オキノエラブヤマトガイ	●	3	3	6
3			アオミオカタニシ	●	11	9	20
4			ミジンヤマタニシ		○	○	○
5			ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	●	16	41
6	エゾタマキビ	カワザンショウ	ウスイロオカチグサ		○	○	
7	オカミマイ	オカミマイ	ナガケシガイ	●		4	68
8	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ		○		○
9		ホソアシヒダナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	●			1
10	マイマイ	アフリカマイマイ	ホソオカチョウジガイの一種				○
11			オカチョウジガイの一種		○	○	○
-			オカチョウジガイ属(稚貝)			○	○
12			スナガイ	スナガイ	●		
13	ミジンマイマイ	マルナタネ				○	
14	キセルガイ	ノミギセル				○	
15			ツヤギセル		○	○	○
16	カサマイマイ	オオカサマイマイ	●	6	28	145	
17	シタラ	ナハキビ	ナハキビ		○	○	○
18			ヒメカサキビ	●		1	0
19			コシタカシタラ				○
20			ヒラシタラ				○
21			キヌツヤベッコウ属	●	12	8	11
22			ヒメベッコウ		○	○	○
23	ベッコウマイマイ	オキナワベッコウ		○	○	○	
24			ベッコウマイマイ	●	1	1	2
25	マラッカベッコウガイ	アジアベッコウ		○	○	○	
26	ナメクジ	ナメクジ			○	○	
27			ヤンバルヤマナメクジ		○		○
28	ナンバンマイマイ	シュリマイマイ種群	オキナワヤマタカマイマイ種群	●	1	2	0
29			オナジマイマイ				○
30			パンダナマイマイ	●	2	1	8
31			オキナワウスカワマイマイ			○	○
32	-	旧オナジマイマイ科(稚貝)				○	
合計	6目	17科	32種	12種	19種	21種	13~19種
						13~21種	

- 注) 1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
 2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
 3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

- 重要な動物種の移動後の生息状況(3/7): 陸産貝類(移動先)
- 移動先における移動前、移動後の調査では、4目13科24種の陸産貝類を確認し、うち10種が重要な種であった。移動を行ったキヌツヤベッコウ属は、移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。
 - 移動先における確認状況は、移動前16種、移動後12~19種となり、移動前と移動後は同程度の種数であった。

移動先における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事前	工事中
					R5秋	R6春~冬
1	アマオブネ	ヤマキサゴ	オキナワヤマキサゴ		○	○
2	ヤマタニシ	ヤマタニシ	オキノエラブヤマトガイ	●		1
3			アオミオカタニシ	●	2	15
4			ヤマタニシ属	●		4
5			ミジンヤマタニシ			○
6			ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	●	1
7		オオシマゴマガイ	●	10	141	
8	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ		○	○
9	マイマイ	アフリカマイマイ	オカチョウジガイの一種		○	○
10			ミジンマイマイ	マルナタネ		○
11		キセルガイ	ツヤギセル		○	○
12		カサマイマイ	オオカサマイマイ	●		7
13		シタラ	ナハキビ			○
14			ヒメカサキビ	●	1	8
15			キヌツヤベッコウ属	●	3	12
16			ヒメベッコウ		○	○
17		ベッコウマイマイ	オキナワベッコウ		○	○
18			ベッコウマイマイ	●	1	1
19	マラッカベッコウガイ	アジアベッコウ			○	
20		ヒラコウラベッコウガイ		○	○	
21	ナメクジ	ヤンバルヤマナメクジ		○	○	
22	ナンバンマイマイ	シュリマイマイ種群		○	○	
23		オキナワヤマタカマイマイ種群	●		8	
24		オキナワウスカワマイマイ			○	
合計	4目	13科	24種	10種	16種	12~19種

- 注) 1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
 3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

○ 重要な動物種の移動後の生息状況(4/7): 陸産貝類(移動先)

- ・ 移動先における移動前、移動後の調査では、5目17科34種の陸産貝類を確認し、うち14種が重要な種であった。移動を行ったヤンバルゴマガイ、オオカサマイマイ及びエイコベッコウは、移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。
- ・ 移動先における確認状況は、移動前15種、移動後13~23種となり、移動前と移動後は同程度の種数であった。

移動先における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事前	工事中		
					R5秋	R5冬	R6春~冬	
1	アマオブネ	ヤマキサゴ	オキナワヤマキサゴ			○	○	
2	ヤマタニシ	ヤマタニシ	オキノエラブヤマトガイ	●	2	4	13	
3			アオミオカタニシ	●	2		20	
4			ミジンヤマタニシ				○	○
5			ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	●	19	62	405
6	エゾタマキビ	カワザンショウ	ウスイロオカチグサ		○	○	○	
7	オカミミガイ	オカミミガイ	ナガケシガイ	●		6	18	
8	マイマイ	アフリカマイマイ	ホソオカチョウジガイの一種		○		○	
9			オカチョウジガイの一種				○	○
-			オカチョウジガイ属(稚貝)		○		○	
10		タワラガイ	ソメフケダワラガイ		○		○	
11		スナガイ	スナガイ	●		5	5	
12		ミジンマイマイ	マルナタネ				○	
13		キバサナギガイ	キバサナギガイ	●		14	24	
14		キセルガイ	ツヤギセル		○	○	○	
15		カサマイマイ	オオカサマイマイ	●	4	5	38	
16	シタラ		ウラウスツカキビ	●		2	2	
17			ハリマキビ近似種					○
18			ナハキビ			○	○	○
19			ヒメカサキビ	●	1			5
20			コシタカシタラ					○
21			ヒラシタラ					○
22			マルシタラ					○
23			キヌツヤベッコウ属	●	1	1		3
24			ヒメベッコウ				○	○
25			エイコベッコウ	●	1			2
26	ベッコウマイマイ	オキナワベッコウ		○	○	○		
27	マラッカベッコウガイ	アジアベッコウ		○	○	○		
28	ナメクジ	ヤンバルヤマナメクジ				○		
29	ナンバンマイマイ		シュリマイマイ種群		○	○	○	
30			オキナワヤマタカマイマイ種群	●				3
31			ウロコケマイマイ	●				1
32			オナジマイマイ					○
33			パンダナマイマイ	●				2
34			オキナワウスカワマイマイ					○
-			旧オナジマイマイ科(稚貝)				○	
合計	5目	17科	34種	14種	15種	18種	13~23種	
							13~23種	

- 注) 1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

- 重要な動物種の移動後の生息状況(5/7): 陸産貝類(移動先)
- 移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前、移動後の調査では、4目15科34種の陸産貝類を確認し、うち11種が重要な種であった。移動を行ったリュウキュウノミガイ、ノミガイ、スナガイ、キバサナギガイ及びボニンキビは、移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。なお、ボニンキビは令和5年度秋季以降の確認がない。
 - 移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における確認状況は、移動前17種、移動後11~24種となり、移動前と移動後は同程度の種数であった。

移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前及び移動後の陸産貝類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事中					
					工事前 R3夏	R3冬	R4春~冬	R5春~冬	R6春~冬	
1	エゾタマキビ	クビキレガイ	クビキレガイ		○	○	○	○	○	
2			カガヨクビキレ	●				3	14	
3		カワザンショウ	ウスイロオカチグサ				○	○	○	
-	カワザンショウ科の一種							○		
4	オカミミガイ	オカミミガイ	ナガケシガイ	●	4	2	24	16		
5			クロヒラシノミ	●					11	
6			ツヤハマシノミガイ					○	○	
7			スジハマシノミガイ					○	○	
8			ハマシノミガイ					○	○	
9			コクトウハマシノミガイ					○		
10	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ	アシヒダナメクジ				○	○		
11	ホソアシヒダナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	●			6	3	3		
12	マイマイ	アフリカマイマイ	ホソオカチョウジガイの一種				○	○		
13			オカチョウジガイの一種		○	○	○	○	○	
-			オカチョウジガイ属(稚貝)				○	○		
14	ハワイマイマイ		リュウキュウノミガイ	●	2	8	56	32	4	
15			ノミガイ	●	113	339	701	445	499	
16	スナガイ		スナガイ	●	2	65	636	76	35	
17			シモチキバサナギガイ				○	○	○	
18	ミジンマイマイ		マルナタネ		○	○	○	○		
19	キバサナギガイ		キバサナギガイ	●	3	7	105	61	5	
20	エゾエンザ		ヒメコハクガイ				○	○		
21	シタラ		マルキビ近似種	●					2	
22			ハリマキビ近似種				○	○	○	
23			ナハキビ			○	○	○	○	○
24			コスジキビ			○			○	
25			ボニンキビ	●			3	44	20	
26			ヒラシタラ					○		○
27	ヒメベッコウ					○	○	○		
28	ベッコウマイマイ		オキナワベッコウ		○	○	○			
29	マラッカベッコウガイ		アジアベッコウ		○		○	○		
30	ナンバンマイマイ		ヒラコウラベッコウガイ		○		○	○		
31			シュリマイマイ種群		○	○	○	○	○	
32			オナジマイマイ		○	○	○	○	○	
33			パンダナマイマイ	●	1		1	6	11	
34			オキナワウスカワマイマイ		○	○	○	○	○	○
-			旧オナジマイマイ科(稚貝)			○	○	○		
合計	4目	15科	34種	11種	17種	16種	16~20種	12~24種	11~19種	
							11~24種			

- 注) 1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

- 重要な動物種の移動後の生息状況(6/7): 爬虫類(移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。)
- 移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前、移動後の調査では、2目7科8種の爬虫類を確認し、うち1種が重要な種であった。移動を行ったオキナワキノボリトカゲ及びアマミタカチホヘビのうち、オキナワキノボリトカゲは移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。アマミタカチホヘビは、移動前、移動後の調査において確認されなかった。その要因として、アマミタカチホヘビは、「第3版 レッドデータおきなわ-動物編-」(平成29年3月、沖縄県)や「レッドデータブック2014 3.爬虫類・両生類」(平成26年9月、環境省編)によると、日中は倒木や転石の下等に生息し、物陰に隠れる習性が強く、人目に付きにくいとされること、移動が1個体と少なかったことが考えられる。
 - 移動先2箇所における確認状況は、移動前1種、移動後1~7種となり、両移動先では、オキナワキノボリトカゲが生息可能な樹林地の環境が保たれていることが確認された。

移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前及び移動後の爬虫類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事前 R3夏	工事中			
						R3冬	R4春~冬	R5春~冬	R6春~冬
1	カメ	ヌマガメ	アカミミガメ				○	○	○
2	トカゲ	ヤモリ	ホオグロヤモリ					○	
3			ミナミヤモリ			○	○	○	○
4		アガマ	オキナワキノボリトカゲ	●	1	2	34	27	32
5		トカゲ	オキナワヒメトカゲ					○	
6		カナヘビ	アオカナヘビ					○	○
7		ナミヘビ	アカマタ				○	○	○
8		クサリヘビ	タイワンハブ				○		
合計		2目	7科	8種	1種	1種	2種	2~5種	2~7種
						1~7種			

- 注)1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわ-動物編-」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
 3. 本事後調査結果(令和6年度)のうち、工事中の結果を黄色の網掛けで示す。

○ 重要な動物種の移動後の生息状況(7/7):クモ類(移動先)

- ・ 移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前、移動後の調査では、1目11科30種のクモ類を確認し、うち3種が重要な種であった。移動を行ったキノボリタテグモ及びキシノウエタテグモ属は移動前だけでなく、移動後の調査においても確認された。
- ・ 移動先2箇所における確認状況は、移動前16種、移動後12~20種となり、移動前と移動後は同程度の種数であった。

移動先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。における移動前及び移動後のクモ類相の状況

No.	目名	科名	和名	重要種	工事中			
					R5秋	R5冬	R6春~冬	
1	クモ	ハラフシグモ	キムラグモ類	●	15	48	239	
2		トタテグモ	キノボリタテグモ	●	4		21	
3			キシノウエタテグモ属	●	1		3	
4		ヒメグモ	トビジロイソウロウグモ				○	
5			ミナミノアカイソウロウグモ		○	○	○	
6			オナガグモ				○	
7			ギボシヒメグモ				○	
8			ムラクモヒシガタグモ		○		○	
9			クロホシミジグモ				○	
10			コガネグモ	ハツリグモ		○	○	
11				ミナミノシマゴミグモ		○	○	○
12		ギンナガゴミグモ			○	○	○	
13		オオジョロウグモ			○	○	○	
-		コガネグモ科(幼体)					○	
14		アシナガグモ	オオシロカネグモ		○		○	
-			シロカネグモ属(幼体)			○	○	
15			リュウキュウアシナガグモ			○		
16			タニカワアシナガグモ				○	
17		ハグモ	シマカレハグモ				○	
18			アマミハグモ			○		
19		アシダカグモ	アシダカグモ				○	
20			オキナワカワリアシダカグモ		○		○	
-			アシダカグモ科(幼体)			○		
21		シボグモ	シボグモ		○		○	
22		ササグモ	シマササグモ				○	
23		カニグモ	イボカニグモ		○	○	○	
24			ダイダイエビスグモ				○	
25			ホシズナワカバグモ		○		○	
26			コキハダカニグモ		○			
-			カニグモ科(幼体)			○	○	
27	ハエトリグモ		アダンソンハエトリ				○	
28			タテスジハエトリ			○	○	
29		アジアミカドハエトリ			○	○		
30		ムナビロアリグモ				○		
-	ハエトリグモ科(幼体)			○				
合計	1目	11科	30種	3種	16種	14種	12~20種	
							12~20種	

- 注) 1. 「重要種」は、以下の選定基準に該当する種を示す。
 ・文化財保護法並びに沖縄県、名護市の文化財保護条例(出典資料:「文化財課要覧(令和6年度版)※抜粋版」(令和7年1月、沖縄県))
 ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律施行令」(令和7年2月政令第9号)
 ・「沖縄県希少野生動植物保護条例」(令和4年12月20日 沖縄県告示第461号)
 ・「報道発表資料 環境省レッドリスト2020の公表について」(令和2年3月、環境省)
 ・「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」(平成29年3月、沖縄県)
2. 「確認状況」は、重要種は個体数、それ以外の種(一般種)は○で示す。
3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

○ 鳥類の営巣状況

- ・ 工事前の平成26年度春季には3種、工事中は平成26年度夏季に1種、平成27年度春季に5種、夏季に1種、平成29年度夏季に4種、平成30年度春季及び夏季にそれぞれ2種、令和元年度春季及び夏季にそれぞれ3種、令和2年度春季に5種、夏季に3種、令和3年度春季に2種、夏季に1種、令和4年度春季に3種、夏季に2種、令和5年度春季に3種、夏季に2種、令和6年度春季に1種、夏季に2種の鳥類の繁殖が確認された。
- ・ 改変区域及びその周辺において、工事中も継続して鳥類の営巣が確認されていることから、鳥類の営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。

鳥類の繁殖状況(工事前、工事中)

和名	工事前		工事中																																							
	H26		H27				H28				H29				H30				R1				R2				R3				R4				R5				R6			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬						
シロチドリ	○				○	○										○				○	○			○			○	○														
コアジサシ																					○																					
ベニアジサシ																																										
エリグロアジサシ	○					○								○														○	○													
ツミ(リュウキュウツミ)														○		○	○				○	○			○	○																
リュウキュウアオバズク		○																																								
カワセミ						○																																				
リュウキュウコゲラ	○					○																																				
アマミヤマガラ						○																																				
リュウキュウキビタキ																○																										

注)1. 平成26年度春季、平成27年度春季及び夏季、平成29年度夏季、平成30年度春季及び夏季のシロチドリとエリグロアジサシは、陸域生態系の調査において確認されたもの。
 2. 表中の「-」は調査を実施していないことを示す。
 3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示す。

第9章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

○ 陸域動物(陸生動物)

- ・ 重要な動物種として、埋立土砂発生区域Aブロック及びBブロック(移動元)に生息していた爬虫類1種、クモ類2種、陸産貝類12種及びオカヤドカリ類2種を工事着手前に移動した。移動先における爬虫類、クモ類及び陸産貝類の確認状況は、移動後は移動前と同程度、または移動前よりも多くの種数が確認された。また、改変区域及びその周辺において、工事中も継続して鳥類の営巣が確認されていることから、鳥類の営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。

○ 水の汚れ	p. 16
○ 土砂による水の濁り（陸域）	p. 19
○ 土砂による水の濁り（海域）	p. 23
○ 地下水の水質	p. 28
○ ウミガメ類	p. 31
○ サンゴ類	p. 35
○ 海藻草類	p. 49
○ ジュゴン	p. 69
○ 海域生物（トカゲハゼ）	p. 85
○ 陸域動物（陸生動物）	p. 89
● <u>陸域動物（河川水生動物）</u>	p. 108
○ 陸域植物	p. 111
○ 陸域生態系（基盤環境、生態系の機能と構造）	p. 114
○ 陸域生態系（地域を特徴づける注目種）	p. 129

陸域動物(河川水生動物)

○ 移動後の河川水生動物の生息状況

- 令和2年度冬季、令和3年度秋季に移動を実施した35種のうち、令和6年度に生息が確認された種は27種、確認されていない種は8種であった。

河川水生動物の生息状況

No.	区分	和名	移動個体数			移動後の確認数				移動先
			基地内小河川		合計	令和6年度				
			2	3		春季	夏季	秋季	冬季	
1	貝類	アラハダカノコ	0	1	1	0	0	0	0	
2		アカグチカノコ	0	1	1	1	0	1	0	
3		カバクチカノコ	0	9	9	2	4	1	1	
4		シマカノコ	0	2	2	0	2	0	2	
5		ムラクモカノコ	1	0	1	5	5	10	2	
6		コハクカノコ	0	53	53	1	0	0	0	
7		ツブコハクカノコ	0	19	19	0	0	0	0	
8		ヌノメカワニナ	122	158	280	0	0	16	4	
9		アマミカワニナ	0	3	3	0	33	2	0	
10		ムチカワニナ	0	7	7	51	73	22	19	
11		スグカワニナ	0	10	10	15	10	5	2	
12		オイランカワザンショウ	0	514	514	2	11	3	1	
13		オキナワミズゴマツボ	0	1	1	55	30	38	30	
14		クロヒラシイノミ	128	331	459	35	64	17	1	
15		ヒラマキミズマイマイ	333	13	346	0	0	0	0	
16	リュウキュウヒラマキモドキ	0	10	10	82	9	17	4		
17	甲殻類	スベスベテナガエビ	0	1	1	2	3	0	0	
18		オオテナガエビ	0	1	1	15	11	6	14	
19		リュウキュウアカテガニ	1	16	17	0	0	0	0	
20		ミズギワベンケイガニ	0	9	9	2	7	7	0	
21		イワトビベンケイガニ	0	5	5	1	2	0	2	
22		ヒメアシハラガニモドキ	0	45	45	1	0	0	0	
23		ベンケイガニ	52	248	300	9	1	0	0	
24		ユビアカベンケイガニ	0	20	20	19	13	14	1	
25		タイワンベンケイガニ	3	0	3	0	0	0	0	
26		トゲアシヒライソガニモドキ	0	3	3	8	5	15	5	
27		ミナミアシハラガニ	0	162	162	4	7	5	1	
28		タイワンヒライソモドキ	10	87	97	138	99	265	122	
29		タイワンオオヒライソガニ	0	2	2	0	0	1	0	
30		昆虫類	オキナワサナエ	0	1	1	13	9	10	
31	魚類	アミメカワヨウジ	0	8	8	22	17	12	9	
32		オニボラ	0	1	1	0	0	0	0	
33		タメトモハゼ	3	0	3	0	0	0	0	
34		ホシマダラハゼ属	0	18	18	3	0	1	3	
35		ミナミヒメミズハゼ	1	0	1	0	0	0	0	
個体数			654	1,759	2,413	486	415	468	228	
種数			10	31	35	23	21	21	19	

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません

○ 水の汚れ	p. 16
○ 土砂による水の濁り（陸域）	p. 19
○ 土砂による水の濁り（海域）	p. 23
○ 地下水の水質	p. 28
○ ウミガメ類	p. 31
○ サンゴ類	p. 35
○ 海藻草類	p. 49
○ ジュゴン	p. 69
○ 海域生物（トカゲハゼ）	p. 85
○ 陸域動物（陸生動物）	p. 89
○ 陸域動物（河川水生動物）	p. 108
● 陸域植物	p. 111
○ 陸域生態系（基盤環境、生態系の機能と構造）	p. 114
○ 陸域生態系（地域を特徴づける注目種）	p. 129

陸域植物

○ 移植後の生育状況

- ・ 調査対象は、令和3年11月に移植したクロタマガヤツリで、調査地は移植先※ 重要な種の保護の観点から表示していません。の2地点とした。
- ・ 令和6年度調査において、出芽個体は確認されなかった。
- ・ 令和6年度調査においても、出芽個体が確認されず、栽培個体から採取した種子の播種を実施する必要があると考えられたため、令和7年1月、令和7年度以降の出芽に向けて、播種を実施した。
- ・ 本調査では、過年度に確認された移植先におけるリュウキュウイノシシによる掘り返しは、確認されなかった。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

クロタマガヤツリの移植先

クロタマガヤツリの確認状況及び移植状況

和名	移植先	移植数	令和6年度 確認数
クロタマガヤツリ	<small>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</small>	5個体	0個体



※ 重要な種の保護の観点から表示していません。の状況
(令和6年12月)



※ 重要な種の保護の観点から表示していません。の状況
(令和6年12月)



※ 重要な種の保護の観点から表示していません。の播種状況
(令和7年1月)



※ 重要な種の保護の観点から表示していません。の播種状況
(令和7年1月)

○ 移植後の生育状況

- ・ クロタマガヤツリは、令和3年11月に5個体を移植したほか、令和5年11月に栽培個体から採取した種子を播種しているところ、令和6年度の調査において、出芽個体は確認されなかった。出芽個体が確認されなかった要因としては、移植先の日照や温湿度、土壌温湿度等の出芽するための条件がそろわなかったこと、もしくは、播種した種子が休眠期間中であったことが考えられる。
- ・ 令和6年度調査においても、出芽個体が確認されず、栽培個体から採取した種子の播種を実施する必要があると考えられたことから、令和7年1月、令和7年度以降の出芽に向けて、播種を実施した。
- ・ 今後も、本種の出芽時期に合わせ、栽培個体から採取した種子の播種を継続するとともに、移植先における個体群の維持について調査を継続し、把握していく考えである。

クロタマガヤツリの移植後の生育状況

和名	移植実施状況		確認数(個体)				移植先
	移植時期	移植数(個体)	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
クロタマガヤツリ	令和3年11月	5	5	13	0	0	※ 重要な種の保種の観点から表示していません。

第5章 事後調査の項目及び調査の手法
第6章 事後調査の結果の概要
第7章 事後調査の結果と環境影響評価の結果との比較検討の結果
第9章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

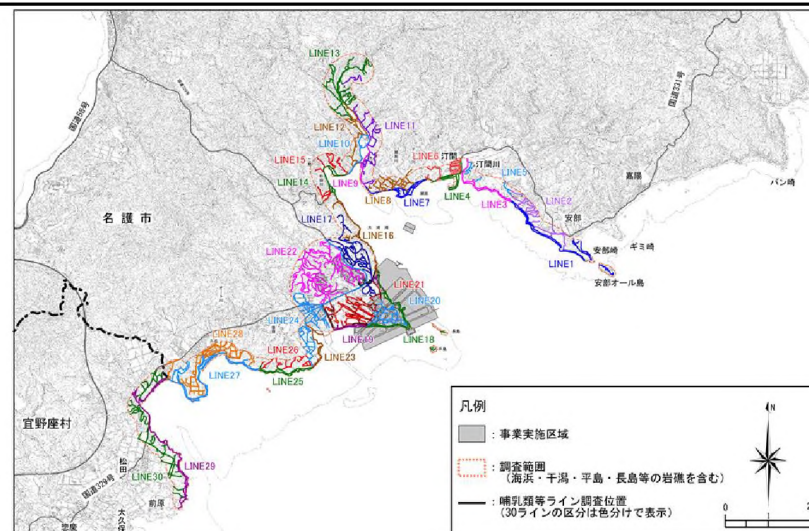
○ 水の汚れ	p. 16
○ 土砂による水の濁り（陸域）	p. 19
○ 土砂による水の濁り（海域）	p. 23
○ 地下水の水質	p. 28
○ ウミガメ類	p. 31
○ サンゴ類	p. 35
○ 海藻草類	p. 49
○ ジュゴン	p. 69
○ 海域生物（トカゲハゼ）	p. 85
○ 陸域動物（陸生動物）	p. 89
○ 陸域動物（河川水生動物）	p. 108
○ 陸域植物	p. 111
● 陸域生態系（基盤環境、生態系の機能と構造）	p. 114
○ 陸域生態系（地域を特徴づける注目種）	p. 129

陸域生態系(基盤環境、生態系の機能と構造)

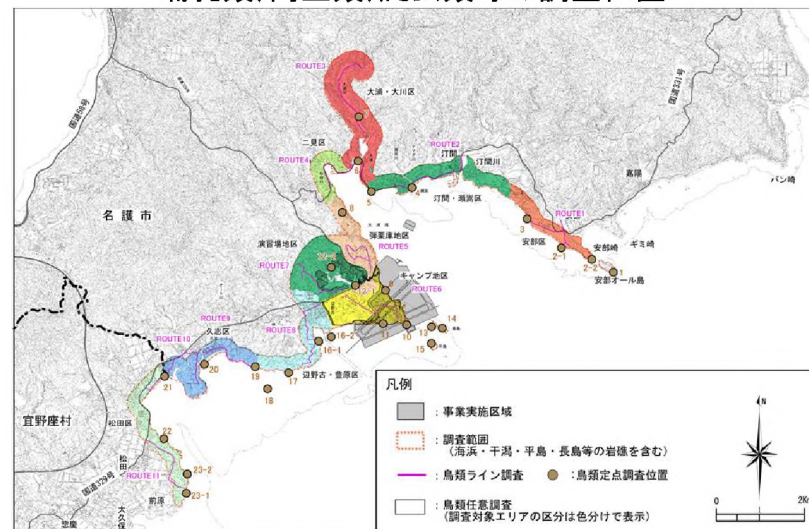
- 動物相の状況:哺乳類、鳥類、両生類等の調査を実施した。(令和6年度4回/年(各季))
- 分類群ごとの確認された種類数は次のとおり

令和6年度の確認種数

分類群	区分	目	科	種
哺乳類	ライン調査	5	7	9
	定点調査	4	5	5
鳥類	定点調査	11	26	55
	ラインセンサス調査	10	30	53
	任意調査	15	40	104
両生類	ライン調査	2	6	9
爬虫類	ライン調査	2	11	17
昆虫類	ライン調査	21	322	2,171
	ライトトラップ調査	13	162	658
	ベイトトラップ調査	12	83	174
	ツルグレン調査	12	49	103
クモ類	ライン調査	1	35	196
	ツルグレン調査	1	9	9
陸産貝類	ライン調査	6	28	101
	ツルグレン調査	2	2	2



哺乳類、両生類、爬虫類等の調査位置



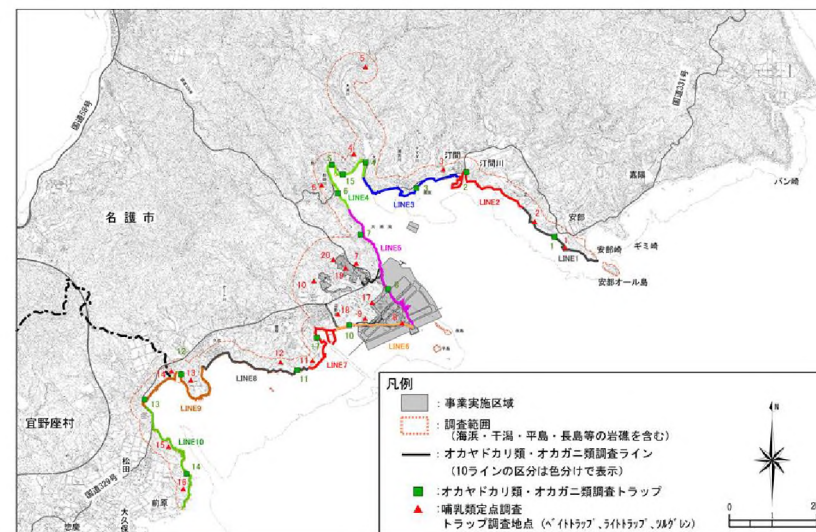
鳥類の調査位置

令和6年度の確認種数

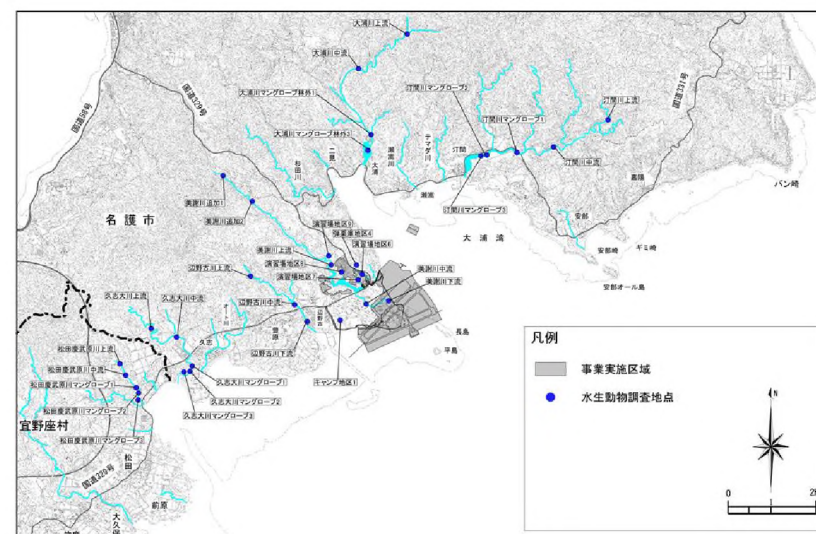
分類群	区分	目	科	種
オカヤドカリ類・オカガニ類	ライン調査	1	2	9
	繁殖期ライン調査	1	2	8
	繁殖期トラップ調査	1	1	4
多足類	ツルグレン調査	11	14	17
水生動物、付着藻類	魚類	14	39	154
	甲殻類	6	39	171
	貝類	14	48	152
	昆虫類(水生昆虫類)	10	69	205
	底生動物(その他の分類群)	19	19	35
	付着藻類	37	65	579

水生動物、付着藻類 (河川別確認種数)	シユウブ内						
	汀間川	大浦川	辺野古川	久志大川	松田慶武原川	美謝川	シユウブ内
魚類	114	111	71	85	55	63	16
甲殻類	120	129	85	119	79	70	20
貝類	100	116	56	90	58	35	21
昆虫類(水生昆虫類)	132	109	86	80	82	94	114
底生動物(その他の分類群)	19	19	8	15	11	8	8
付着藻類	333	251	233	301	310	203	175
合計	818	735	539	690	595	473	354
魚類(通し回遊のみ)種数	111	110	68	82	52	60	13
魚類(通し回遊のみ)個体数	4,082	4,087	1,710	2,334	1,525	1,310	311

注)通し回遊魚は、両側回遊性魚類、降河回遊性魚類及び周縁性魚類を意味する。



オカヤドカリ類・オカガニ類の調査位置



水生動物、付着藻類の調査位置

重要な種一覧(1/5)

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
哺乳類	1	ネズミ	オキナワハツカネズミ	<i>Mus caroli</i>			●		1		DD	
	2	トガリネズミ	ワタセジネズミ	<i>Crocidura watasei</i>		●	●		2	NT	NT	
	3		ジャコウネズミ	<i>Suncus murinus</i>	●	●	●	●	28		DD	
	4	オオコウモリ	オリオオコウモリ	<i>Pteropus dasymallus inopinatus</i>	●	●	●	●	319		NT	
	5	キウガシラコウモリ	オキナワコキウガシラ コウモリ	<i>Rhinolophus pumilus pumilus</i>	●	●	●	●	26	EN	EN	名護市天 国内
	6	ヒナコウモリ	リュウキュウヒナコウモリ	<i>Miniopterus fuscus</i>	●	●	●	●	4	EN	EN	国内
	7	イノシシ	リュウキュウイノシシ	<i>Sus scrofa riukiuanus</i>	●	●	●	●	117		VU	
小計:7種					5種	5種	7種	4種	495	3種	7種	2種
鳥類	1	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus jotaka</i>			●		1	NT	NT	
	2	ハト	カラスバト	<i>Columba janthina</i>	●				1	NT	VU	国天
	3	カイツブリ	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis</i>		●	●		2		NT	
	4	ミフウズラ	ミフウズラ	<i>Turnix suscitator</i>	●	●	●	●	12		VU	
	5	セイタカシギ	セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	●	●	●	●	4	VU	VU	
	6	チドリ	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	●	●	●	●	169	VU	VU	
	7		オオメダイチドリ	<i>Charadrius leschenaultii</i>	●	●	●	●	2			国際
	8		メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	●	●	●	●	3			国際
	9	シギ	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	●	●	●	●	5	NT	NT	
	10	ツバメチドリ	ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	●				1	VU	VU	
	11	カモメ	コアシガン	<i>Stemula albigrons</i>	●	●	●	●	12	VU	VU	
	12		マミジロアジサシ	<i>Onychoprion anaethetus</i>	●	●	●	●	5		NT	
	13		ベニアジサシ	<i>Sterna dougallii</i>	●	●	●	●	2	VU	VU	
	14		エリゴロアジサシ	<i>Sterna sumatrana</i>	●	●	●	●	51	VU	VU	
	15	サギ	リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>	●	●		●	4		NT	
	16		チュウサギ	<i>Ardea intermedia</i>	●	●	●	●	4	NT	NT	
	17	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	●	●	●	●	59	NT	NT	
	18	タカ	ツミ(リュウキュウツミ)	<i>Accipiter gularis iwasakii</i> (<i>A. iwasakii</i>)	●	●	●	●	15	(EN)	DD(EN)	
	19		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>		●	●	●	2	NT		
	20		オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>		●	●	●	1	NT		
	21		サシバ	<i>Buteo indicus</i>	●	●	●	●	160	VU	VU	
	22	フクロウ	リュウキュウアオバズク	<i>Ninox japonica tofoga</i>	●	●	●	●	392		NT	
	23		リュウキュウコノハズク	<i>Otus elegans</i>	●	●	●	●	221		NT	
	24		リュウキュウオオコノハズク	<i>Otus semitorques pryeri</i>	●	●	●	●	80	VU	VU	
	25	カワセミ	カワセミ	<i>Alcedo atthis</i>	●	●	●	●	91		NT	
	26	キツツキ	リュウキュウコゲラ	<i>Yungipicus kizuki nigrescens</i>	●	●	●	●	327		NT	
	27	ハヤブサ	ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	●	●	●	●	11	VU	VU	国内
	28	シジュウカラ	アマミヤマガラ	<i>Sittiparus varius amamii</i>	●	●	●	●	29		NT	
	29	ヒタキ	リュウキュウキビタキ	<i>Ficedula owstoni</i>	●	●	●	●	9	DD	EN	
小計:29種					21種	19種	21種	19種	1,675	18種	24種	4種
両生類	1	イモリ	オキナワイボイモリ	<i>Echinotriton andersoni</i>	●	●	●	●	465	VU	VU	国内 県天
	2		オキナワシリケンイモリ	<i>Cynops ensicauda popei</i>	●	●	●	●	1,257	NT	NT	
	3	アマガエル	ハロウエルアマガエル	<i>Hyla hallowellii</i>	●	●	●	●	118		NT	
	4	アカガエル	リュウキュウアカガエル	<i>Rana ulma</i>	●	●	●	●	576	NT	VU	
	小計:4種					3種	3種	3種	3種	2,416	3種	4種

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
爬虫類	1	トカゲモドキ	クロイトカゲモドキ	<i>Goniurosaurus kuroiwaie</i>	●	●	●	●	22	VU	VU	国内 県天
	2	ヤモリ	オキナワヤモリ	<i>Gekko sp.</i>	●		●	●	6	NT		
	3	アガマ	オキナワキノボリトカゲ	<i>Diploderma polygamatum polygamatum</i>	●	●	●	●	417	VU	VU	
	4	トカゲ	オキナワトカゲ	<i>Plestiodon marginatus</i>	●	●	●	●	27	VU	VU	
	5	タカチホヘビ	アマミタカチホヘビ	<i>Achalinus wernerii</i>	●	●	●	●	3	NT	NT	
小計:5種					4種	4種	5種	3種	475	5種	4種	1種
昆虫類	1	イトトンボ	ヒメイトトンボ	<i>Agriocnemis pygmaea</i>	●	●	●	●	22	NT		
	2	ヤンマ	オキナワサラヤンマ	<i>Sarasaeschna kunigamiensis</i>	●				2	NT		
	3		トビロヤンマ	<i>Anaciaeschna jaspidae</i>	●				3	EN	EN	
	4	サナエトンボ	オキナワサナエ	<i>Aciagomphus amamiensis okinawanus</i>	●	●	●	●	112	NT		
	5	ヤマトンボ	オキナワヤマトンボ	<i>Macromia kubokaiya</i>	●	●	●	●	233	NT		
	6	カマキリ	ウスバカマキリ	<i>Mantis religiosa sinica</i>	●	●	●	●	28	DD	NT	
	7	コオロギ	タカラウミコオロギ (ウスモンナギサズ)	<i>Marinemobius takarai</i>	●	●	●	●	77		NT	
	8	キリギリス	コバナササキリ	<i>Conoccephalus japonicus japonicus</i>			●	●	1		NT	
	9	タイコウチ	ヒメズカマキリ	<i>Ranatra unicolor</i>	●	●	●	●	4		NT	
	10	マツモムシ	オキナワマツモムシ	<i>Notonecta montandoni</i>	●	●	●	●	55	NT	NT	
	11	サンゴアメンボ	サンゴアメンボ	<i>Hermatobates schuhi</i>	●	●	●	●	9	NT	NT	
	12	ミスギワカメムシ	サンゴミスギワカメムシ	<i>Saluncula decempunctata</i>	●	●	●	●	30		NT	
	13	サシガメ	ハイロイボサシガメ	<i>Coranus spiniscutis</i>	●	●	●	●	120	NT		
	14		タカラサシガメ	<i>Elongicoris takarai</i>	●	●	●	●	8	NT	NT	
	15	ミスズマシ	オオミスズマシ	<i>Dineutus orientalis</i>	●	●	●	●	77		NT	
	16	ゲンゴロウ	フタキボシゲンゴロウ	<i>Allopachria bimaculata</i>	●	●	●	●	174	NT		
	17		オオマルケシゲンゴロウ	<i>Hydrovatus bonvouloiri</i>	●	●	●	●	5	NT	NT	
	18		サメハダマルケシゲンゴロウ (マルケシゲンゴロウ)	<i>Hydrovatus stridulus</i>	●	●			10	NT		
	19		ヤンバルオオイチモンジ シマゲンゴロウ	<i>Hydraticus yambaruensis</i>	●	●	●	●	60			国内
	20		ヒメフチドリゲンゴロウ	<i>Cybister rugosus</i>	●	●	●	●	4	VU	VU	国内
	21		トビロゲンゴロウ	<i>Cybister sugillatus</i>	●	●	●	●	5		NT	
	22	ハンミョウ	シロヘリハンミョウ(琉球亜種 (オキナワシロヘリハンミョウ))	<i>Callytron yuasai okinawense</i>	●	●	●	●	35	NT	LP	
	23	オサムシ	クチキゴミムシ	<i>Merion japonicum</i>	●	●	●	●	1	VU		
	24	ガムシ	オキナワマルチビガムシ	<i>Pelthidius okinawanus</i>	●	●	●	●	134	DD	VU	
	25	ガムシ	サトミヒラガムシ	<i>Enochrus satomii</i>	●	●	●	●	1		VU	
	26	シマトビケラ	オキナワホシシマトビケラ	<i>Macrostemum okinawanum</i>	●	●	●	●	109	NT		
	27	シジミチョウ	イワカワシジミ	<i>Artipe ervx okinawana</i>	●	●	●	●	154	NT		
	28	タテハチョウ	コノハチョウ	<i>Kallima inachus eucerca</i>	●	●	●	●	9	NT		県天
	29		フタオチョウ	<i>Polyura eudamippus weismanni</i>	●	●	●	●	15	NT		県天
	30		リュウキュウウラナミジャノメ	<i>Ypthima riukiwana</i>	●	●	●	●	43	NT		
	31	ドクガ	クニガミスゲドクガ	<i>Laelia kunigamiensis</i>	●	●	●	●	3	NT		
	32	カ	オオハマハマダラカ	<i>Anopheles saeperei</i>	●	●	●	●	63	NT		
小計:32種					28種	23種	24種	18種	1,606	25種	15種	4種
カメ類	1	ハラフシガモ	キムラガモ類	<i>Heterothela (s. lat.) spp. (& Nest holes)</i>	●	●	●	●	1,382	VU	VU	
	2	トクダゲモ	キノボリトクダゲモ	<i>Gonothela fragaria (& Nest holes)</i>	●	●	●	●	21	NT	NT	
	3		キシノウエトクダゲモ	<i>Latouchia spp. (& Nest holes)</i>	●	●	●	●	20	VU	VU	
	4	カヤシマガモ	リュウキュウカヤシマガモ	<i>Tricalanus ryukyuensis</i>	●	●	●	●	38		NT	
	5	キシダガモ	オオハシリガモ	<i>Dolomedes orion</i>	●	●	●	●	52		DD	
	6	ハエトリガモ	カノハエトリ	<i>Oncomastus kanoi</i>	●	●	●	●	301		DD	
小計:6種					6種	6種	5種	6種	1,814	2種	6種	0種

重要な種一覧(2/5)

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
陸産貝類	1	ゴマオカタニシ	ブクダゴマオカタニシ	<i>Georissa hukudai</i>	●	●	●	●	40	NT		
	2	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ	<i>Georissa japonica</i>	●	●	●	●	79	NT	LP	
	3	ヤマタニシ	ケハダヤマトガイ種群	<i>Japonia spp.</i>	●	●	●	●	11	NT	VU	
	4		オキノエラブヤマトガイ	<i>Japonia tokunoshimana okinoebuenensis</i>	●	●	●	●	16	VU	VU	
	5		アオミオカタニシ	<i>Leptopoma nitidum</i>	●	●	●	●	9,271	NT	NT	
	6		ヤマタニシ属	<i>Cyclophorus spp.</i>	●	●	●	●	349	VU	NT	
	7	ゴマガイ	ヤンバルゴマガイ	<i>Diplommatina sp. B</i>	●	●	●	●	160	VU	VU	
	8		クニガミゴマガイ	<i>Diplommatina lyrata</i>	●	●	●	●	4	VU	NT	
	9		オオシマゴマガイ	<i>Diplommatina oshimae</i>	●	●	●	●	41	VU	VU	
	10	クビキレガイ	カガヨクビキレ	<i>Truncatella sp.</i>	●	●	●	●	56	CR	CR+EN	
	11		アマミクビキレ	<i>Truncatella sp.</i>	●	●	●	●	237	VU	VU	
	12		カイゲンボウクビキレ	<i>Truncatella sp.</i>	●	●	●	●	17	VU	VU	
	13	オカミミガイ	ナガケンガイ	<i>Carvadium cymatoplax</i>	●	●	●	●	48	NT		
	14	ホソアシヒダ ナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	Rathousiidae gen. spp.	●			●	6		VU or NT	
	15	ハワイマイマイ	リュウキュウノミガイ	<i>Pacificella rucuaana</i>	●	●	●	●	287	NT	DD	
	16		リュウキュウノミガイ属の一種	<i>Pacificella sp.</i>	●	●	●	●	12	NT	NT	
	17		ノミガイ	<i>Tomatellides boeningi</i>	●	●	●	●	1,890	VU		
	18	スナガイ	スナガイ	<i>Gastrocopta armigerella</i>	●	●	●	●	75	NT		
	19	ミジンサナギガイ	ミジンサナギガイ	<i>Truncatellina insulivaga</i>	●	●	●	●	5	NT	VU	
	20	キバサナギガイ	キバサナギガイ	<i>Vertigo hirasei</i>	●	●	●	●	7	CR+EN	NT	
	21	キセルガイ	キンチャクキセル	<i>Luchuphaedusa callistochila</i>	●	●	●	●	8	VU	CR+EN	
	22		リュウキュウキセル	<i>Luchuphaedusa inclyta</i>	●	●	●	●	27	CR+EN	CR+EN	国内
	23		スジイロキナワキセル	<i>Phaedusa valida fasciata</i>	●	●	●	●	253	NT	NT	
	24	カサマイマイ	オオカサマイマイ	<i>Videna horiompala</i>	●	●	●	●	191	NT		
	25	シタラ	ウラウスダカキビ	<i>Coneuplecta sp.</i>		●	●	●	2		VU	
	26		ヒメカサキビ	<i>Trochochlamys subcrenulata</i>	●	●	●	●	9	NT	NT	
	27		ボンキビ	<i>Liardetia boninensis</i>	●	●	●	●	1	NT	NT	
	28		カサシタラ	<i>Sitalina hirasei</i>	●	●	●	●	22		CR+EN	
	29		ウメムラシタラ	<i>Sitalina japonica</i>	●	●	●	●	1	NT		
	30		キヌツヤベッコウ属	<i>Wapnochlamys sp. 1 or N. sp. 2</i>	●	●	●	●	19		CR+EN or NT	
	31	ベッコウマイマイ	ベッコウマイマイ	<i>Bekkochlamys perforabilis</i>	●	●	●	●	35	DD	NT	
	32		オキナワテラマチベッコウ	<i>Bekkochlamys sp. 1</i>	●	●	●	●	3	EN	VU	
	33	ナンバン マイマイ	オキナワヤマタカ マイマイ種群	<i>Satsuma spp.</i>	●	●	●	●	559		EN or VU	県希少 種
	34		トウガタホソマイマイ	<i>Pseudobuliminus turrita</i>	●	●	●	●	29	CR+EN	VU	
	35		ウロコケマイマイ	<i>Aegista lepidophora</i>	●	●	●	●	31	CR+EN	VU	
	36		イトマンケマイマイ	<i>Aegista scepasma</i>	●	●	●	●	14	VU	CR+EN	
	37		バンドナマイマイ	<i>Bradybaena circulus</i>	●	●	●	●	672	NT	NT	
小計:37種					33種	30種	34種	31種	14,487	29種	30種	2種
オカヤドカリ・オカガ ニ類	1	オカヤドカリ	オカヤドカリ	<i>Coenobita cavipes</i>	●	●	●	●	351			国天
	2		コムラサキオカヤドカリ	<i>Coenobita violascens</i>	●	●	●	●	192	NT		国天
	3		オオナキオカヤドカリ	<i>Coenobita brevimanus</i>	●	●	●	●	6	NT		国天
	4		ムラサキオカヤドカリ	<i>Coenobita purpureus</i>	●	●	●	●	9,444			国天
	5		ナキオカヤドカリ	<i>Coenobita rugosus</i>	●	●	●	●	50,139			国天
	6		ヤシガニ	<i>Birgus latro</i>	●	●	●	●	10	VU	VU	
	7	オカガニ	ヘリトリオカガニ	<i>Cardisoma rotundum</i>	●	●	●	●	2	NT	NT	
	8		ヒメオカガニ	<i>Epigrapsus notaus</i>	●	●	●	●	1	NT	NT	
小計:8種					5種	8種	6種	5種	60,145	5種	3種	5種

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
魚類	1	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>	●		●	●	3	EN	EN	
	2	ウツボ	コゲウツボ	<i>Uropterygius hades</i>		●	●	●	9	CR	CR	
	3	タウナギ	タウナギ属の一種	<i>Monopterygius sp.</i>	●	●	●	●	19	CR	CR	
	4	ヨウジウオ	ハクテンヨウジ	<i>Hippichthys cyanospilus</i>		●	●	●	3	DD		
	5		アミメカワヨウジ	<i>Hippichthys heptagonus</i>	●	●	●	●	104	EN	EN	
	6	ボラ	カマヒレボラ	<i>Moolgarda tade</i>		●	●	●	4	DD		
	7	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	●	●	●	●	87	VU	CR	県希少種
	8	カワアナゴ	ジャノメハゼ	<i>Bostrychus sinensis</i>	●	●	●	●	24	EN	NT	
	9		オウギハゼ	<i>Bunaka gyvrioides</i>		●	●	●	2	NT	EN	
	10		タナゴモドキ	<i>Hypseleotris everetti</i>		●	●	●	2	EN	VU	
	11		タメトモハゼ	<i>Giuris tolsoni</i>		●	●	●	1	EN	VU	
	12		クモマダラハゼ	<i>Ophiocara gigas</i>	●	●	●	●	40	VU	NT	
	13		ホシマダラハゼ	<i>Ophiocara ophicephalus</i>		●	●	●	1	VU	NT	
	14	ハゼ	アサガラハゼ	<i>Caragobius urolepis</i>		●	●	●	3	VU	EN	
	15		コガネチワラスボ (チワラスボ属の一種C)	<i>Taenioides gracilis</i>	●		●	●	2		EN	
	16		ホシドメヒゲワラスボ	<i>Trypauchenopsis limicola</i>	●	●	●	●	155	VU	VU	
	17		マバラヒゲワラスボ	<i>Trypauchenopsis intermedia</i>	●	●	●	●	27	VU	VU	
	18		ヨロイボウスハゼ	<i>Lentipes armatus</i>	●	●	●	●	22	CR	VU	
	19		アカボウスハゼ	<i>Sicyopterus zosterophorus</i>	●	●	●	●	14	CR	VU	
	20		ルリボウスハゼ	<i>Sicyopterus lagocephalus</i>	●	●	●	●	52	VU		
	21		ミナミヒメミズハゼ	<i>Luciogobius ryukyuenis</i>	●	●	●	●	37	VU	VU	
	22		トサカハゼ	<i>Oriatogobius lophius</i>		●	●	●	1	EN	VU	
	23		カブキハゼ	<i>Eugnathogobius mindora</i>	●		●	●	3	NT	VU	
	24		フタスジノボリハゼ	<i>Amoya melaenus</i>	●	●	●	●	78	NT	NT	
	25		カワクモハゼ	<i>Bathygobius sp.</i>	●	●	●	●	22	CR	VU	
	26		ニセシラヌイハゼ	<i>Silhouettea sp.</i>	●	●	●	●	60	NT	EN	
	27		ホホグロスジハゼ	<i>Acentrogobius suluensis</i>		●	●	●	3	NT	NT	
	28		マンクロープゴマハゼ	<i>Pandaka lidwilli</i>	●	●	●	●	61	VU	VU	
	29		クマノコハゼ	<i>Dotsugobius bleakeri</i>	●	●	●	●	6		DD	
	30	クロユリハゼ	クジャクハゼ	<i>Pariglossus caeruleolineatus</i>	●	●	●	●	2	DD		
	31	フグ	クサフグ	<i>Takifugu albopolumbeus</i>	●	●	●	●	83	LP	EN	
小計:31種					20種	23種	24種	25種	930	29種	28種	1種

重要な種一覧(3/5)

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
甲殻類	1	ヌマエビ	ミナオヌマエビ	<i>Atyoida pilipes</i>		●	●		2	NT	NT	
	2	テナガエビ	スベスベテナガエビ	<i>Macrobrachium equidens</i>	●		●	●	6		NT	
	3		ネッタテナガエビ	<i>Macrobrachium placidulum</i>	●	●			19	VU		
	4	テッポウエビ	テッポウエビ	<i>Alpheus cf. tricoloratus</i>				●	1		NT	
	5		ハシボソテッポウエビ	<i>Alpheus dolichodactylus</i>	●	●	●	●	40	NT	DD	
	6		マングローブテッポウエビ	<i>Alpheus richardsoni</i>	●	●	●	●	64	NT		
	7	スナモグリ	ズビエスナモグリ	<i>Paratrypaea bouvieri</i>	●	●	●	●	17	DD		
	8	アナジャコ	コブシアアナジャコ	<i>Upogebia sakaii</i>	●	●	●	●	48	VU		
	9	ヤドカリ	マルテツノヤドカリ	<i>Diogenes avarus</i>				●	3			NT
	10	コブシガニ	マンガールマメコブシガニ	<i>Bellaya nishihirai</i>	●	●	●		175	DD	NT	
	11		アマミマコブシガニ	<i>Bellaya taekoeae</i>	●	●	●	●	11	DD	NT	
	12		イリオモテマメコブシガニ	<i>Philyra iriomotensis</i>	●	●	●	●	66	DD	VU	
	13	ワタリガニ	ツノナシボザガニ	<i>Xiphonectes brockii</i>	●	●	●	●	28	DD	NT	
	14	サワガニ	アラモトサワガニ	<i>Geothelphusa aramotoi</i>	●	●	●	●	83	VU	NT	
	15		サカモトサワガニ	<i>Geothelphusa sakamotoana</i>		●			3	NT	NT	
	16	ベンケイガニ	リュウキュウアケガニ	<i>Chironomantis ryukyuanum</i>	●	●	●	●	30	VU	VU	
	17		フジガニ	<i>Olistocoloma villosum</i>	●	●	●	●	287	NT		
	18		ミスギワベンケイガニ	<i>Leptarma lio</i>	●	●	●	●	53		NT	
	19		イウトビベンケイガニ	<i>Metasesarma obesum</i>	●	●	●	●	17	NT	NT	
	20		ヒナアンハラモドキ	<i>Neosarmatium laeve</i>		●	●	●	3	DD	NT	
	21		ベンケイガニ	<i>Orisarma intermedium</i>	●	●	●	●	156	NT		
	22		ツメナガベンケイガニ	<i>Parasesarma lepidum</i>		●			1		NT	
	23		ユビアカベンケイガニ	<i>Parasesarma tripechinis</i>	●	●	●	●	484	NT		
	24		ミゾテアシハラガニ	<i>Sarmatium striaticarpus</i>	●	●	●	●	24		NT	
	25		アシナガベンケイガニ	<i>Sesarmoides kraussi</i>		●	●	●	6	DD	NT	
	26	モクスガニ	ハマガニ	<i>Chamagnathus convexus</i>		●	●	●	1	NT		
	27		オキナワヒライソガニ	<i>Gaëdica unguatus</i>	●	●	●	●	6	NT		
	28		ミナミアシハラガニ	<i>Pseudohelice subquadrata</i>	●	●	●	●	502	NT		
	29		アゴヒロカワガニ	<i>Ptychognathus altimanus</i>	●	●	●	●	46	NT	NT	
	30		ヒメヒライソモドキ	<i>Ptychognathus capillidigitatus</i>	●	●	●	●	559	NT		
	31		コウビロヒライソモドキ	<i>Ptychognathus insolitus</i>	●	●	●	●	12		NT	
	32		タイワンヒライソモドキ	<i>Ptychognathus ishii</i>	●	●	●	●	949	NT		
	33		ミナミヒライソモドキ	<i>Thalassograpus harpax</i>		●			1	NT		
	34		トリウミアカイソモドキ	<i>Sestrosotoma toriumii</i>	●	●	●	●	5	NT	NT	
	35		ニセモクスガニ	<i>Utica gracilipes</i>		●			1		NT	
	36		タイワンオオヒライソガニ	<i>Varuna yui</i>	●	●	●	●	2	DD	DD	
	37	ムツハリアケガニ	カワスナガニ	<i>Deiratonotus japonicus</i>	●	●	●	●	144	NT	NT	
	38		ヨウナンシカワスナガニ	<i>Paramoguai pyriforme</i>	●	●	●	●	24	NT	NT	
	39		ミナムツハリアケガニ	<i>Takedellus ambonense</i>	●	●	●	●	137	DD	NT	
	40	コムツキガニ	チゴガニ	<i>Ilyoplax pusilla</i>				●	1		VU	
	41	オサガニ	ヨミノオサガニ	<i>Euplax leptophthalmus</i>				●	1		DD	
	42		ヒメヤマトオサガニ	<i>Macrophthalmus banzai</i>	●	●	●	●	62	NT		
	43		ホルトハウスオサガニ	<i>Macrophthalmus holthuisi</i>	●	●	●	●	43	NT	NT	
	44	スナガニ	シモフリシオマネキ	<i>Austruca triangularis</i>		●	●	●	1	NT	NT	
	45		リュウキュウシオマネキ	<i>Tubeuca coarctata</i>	●	●	●	●	4	NT	NT	
小計: 45種					32種	36種	34種	34種	4,128	34種	31種	0種

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分		
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他
貝類	1	アマオホネガイ	ウロコイシマキ	<i>Olithon squarrosus</i>			●		1	NT	DD	
	2		コウモリカノコ	<i>Neripteron auriculata</i>	●	●	●	●	56	NT		
	3		キジビキカノコ	<i>Neripteron spiralis</i>	●	●	●	●	47	NT		
	4		ツバサカノコ	<i>Neripteron subauriculata</i>	●	●	●	●	185	NT		
	5		フリソデカノコ	<i>Neripteron sp. B</i>	●	●	●	●	32	NT		
	6		ヒラマキアマオホネ	<i>Nerita planospira</i>				●	1	NT	NT	
	7		ニセヒロクチカノコ	<i>Neritina siquiorensis</i>	●	●	●	●	13	NT		
	8		アカゲチカノコ	<i>Neritina petiti</i>	●	●	●	●	17	NT		
	9		シマカノコ	<i>Neritina turrita</i>	●	●	●	●	1,250	NT		
	10		クロズミアカゲチカノコ	<i>Neritina sp. A</i>	●	●	●	●	21	NT	NT	
	11		ウスベニツバサカノコ	<i>Neritina sp. B</i>	●	●	●	●	41	NT		
	12		オカインマキ	<i>Neritodryas comea</i>	●	●	●	●	10	VU	VU	
	13	コハクノコガイ	コハクノコ	<i>Neritilia rubida</i>	●	●	●	●	22	NT		
	14		ツブコハクノコ	<i>Neritilia vulgaris</i>	●	●	●	●	28	NT		
	15	フネアマガイ	ベッコウフネアマガイ	<i>Septaria lineata</i>	●	●	●	●	41	NT		
	16		ユキスズメガイ	<i>Phenacolepas pulchella</i>	●	●	●	●	124	NT		
	17	オニノソノガイ	コゲツノエ	<i>Cerithium coralium</i>	●	●	●	●	47	VU		
	18		カヤノシメガニ	<i>Clvpeomorus bifasciata</i>	●	●	●	●	195	NT		
	19	トゲカワニナ	ヌメカワニナ	<i>Melanoides tuberculatus</i>	●	●	●	●	396	NT		
	20	トゲカワニナ	ネジヒダカワニナ	<i>Semvula rieueti</i>	●	●	●	●	1,578	NT		
	21		アマミカワニナ	<i>Stenomelania costellaris</i>	●	●	●	●	35	CR+EN	CR+EN	希希少種
	22		ムチカワニナ	<i>Stenomelania arenulatus</i>	●	●	●	●	25	CR+EN	CR+EN	
	23		スガカワニナ	<i>Stenomelania uniformis</i>	●	●	●	●	40	CR+EN	VU	
	24		イボアヤカワニナ	<i>Tarebia granifera</i>	●	●	●	●	330	NT		
	25		カリントウカワニナ	<i>Tarebia cf. rudis</i>	●	●	●	●	5	CR+EN	CR+EN	
	26	キバウミニナ	ヘナタリ	<i>Pirenella nipponica</i>		●			3	NT	NT	
	27		カワアイ	<i>Pirenella pupiformis</i>	●				1	VU		
	28		フトヘナタリ	<i>Cerithiidea moerchii</i>	●	●	●	●	88	NT		
	29		マドモチウミニナ	<i>Terebralia sulcata</i>	●	●	●	●	307	VU	VU	
	30	タマキビ	イロタマキビ	<i>Littoraria conica</i>	●	●	●	●	77	NT		
	31	ワカウラソボ	マンガールソボ	<i>Iravadia quadrasi</i>	●	●	●	●	37	NT		
	32		ミジンゴマツボ	<i>Liroceratia sulcata</i>	●	●	●	●	8	VU	NT	
	33	カチドキシタタミ	カトウラソボシタタミ	<i>Coliracemata katurana</i>	●	●	●	●	24	CR+EN	CR+EN	
	34	カウザンショウガイ	オイヤンカウザンショウ	Assimineidae gen. A & sp.	●	●	●	●	330	NT	NT	
	35		ドームカドカド	<i>Ditropisena sp.</i>	●	●	●	●	11	CR+EN	CR+EN	
	36	ミズゴマツボ	オキナワミズゴマツボ	<i>Stenothyra basiangulata</i>	●	●	●	●	189	NT		
	37	ムシロガイ	カニノテムシロ	<i>Nassarius bellulus</i>	●	●	●	●	123	NT		
	38	オオコメツガイ	コヤスツラ	<i>Acteocina kovasensis</i>	●	●	●	●	45	NT	NT	
	39	トウガタガイ	アンバルクチキレ	<i>Symola hanzawai</i>	●	●	●	●	52	NT	NT	
	40		シゲヤスイトカケギリ	<i>Pyrzulina shirevassui</i>	●	●	●	●	10	NT	NT	
	41	イソアワモチ	ドロアワモチ	<i>Onchidium sp.</i>	●	●	●	●	21	VU	NT	
	42		ゴマセンベアアワモチ	<i>Platevindex sp. B</i>	●	●	●	●	247	NT	NT	
	43	オカミミガイ	コハクオカミミガイ	<i>Ellobium pallidum</i>	●	●	●	●	25	CR+EN	CR+EN	希希少種
	44		カタシノミミガイ	<i>Cassidula crassiuscula</i>	●	●	●	●	725	NT	NT	
	45		ウラシマミミガイ	<i>Cassidula mustelina</i>	●	●	●	●	179	NT	NT	
	46		ヒメシノミミガイ	<i>Cassidula nigrobrunnea</i>	●	●	●	●	19	CR+EN	CR+EN	
	47		シノミミガイ	<i>Cassidula plecotrematoide japonica</i>	●	●	●	●	16	CR+EN		
	48		ヒゲマキシノミミガイ	<i>Cassidula plecotrematoide s plecotrematoide s</i>		●	●	●	15	NT		
	49		コウモリミミガイ	<i>Cassidula vesperlioni</i>	●	●	●	●	1	NT	DD	
	50		シュジョコミミガイ	<i>Laemodonta minuta</i>	●	●	●	●	33	NT		

重要な種一覧(4/5)

区分	番号	科名	和名	学名	R6春	R6夏	R6秋	R6冬	R6合計 個体数	カテゴリー区分			
										環境省 R L	沖縄県 R D B	その他	
貝類 つづき	51	オカミガイ	マキシジコミガイ	<i>Laemodonta monilifera</i>		●	●		2	NT			
	52		クリイロコミガイ	<i>Laemodonta siamensis</i>	●	●	●		18	VU			
	53		ヘソアキコミガイ	<i>Laemodonta typica</i>	●	●	●		152	NT			
	54		ウルシヌリハマシイノミ	<i>Melampus nucleolus</i>		●			3	VU	VU		
	55		デンジハマシイノミ	<i>Melampus ovuloides</i>		●			1	VU	VU		
	56		ニワタズミハマシイノミ	<i>Melampus sculptus</i>	●		●		6	VU	VU		
	57		キヌメハマシイノミ (トリコハマシイノミ)	<i>Melampus sulculosus</i>	●	●	●	●	320	NT	VU		
	58		Microtralia属の一種	<i>Microtralia sp.</i>	●	●	●		7	NT	VU		
	59		ヒツメガイ	<i>Pedipes jouani</i>	●	●	●		26	NT			
	60		ヒメヒラシイノミ	<i>Pythia nana</i>	●	●	●	●	222	NT	VU		
	61		クロヒラシイノミ	<i>Pythia pachyodon</i>	●	●	●	●	2,767	NT	NT		
	62	モノアラガイ	タイワンモノアラガイ	<i>Limnaea swinhoei</i>	●	●	●		12	DD			
	63	ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイ	<i>Gyraulus chinensis</i>	●	●	●	●	22	DD			
	64		リュウキュウヒラマキモドキ	<i>Polyplvis usta</i>	●	●	●		34	NT	NT		
	65	カワコザラガイ	カワコザラ属の一種	<i>Ferrissia sp.</i>	●	●	●	●	26	CR	CR+EN		
	66	ツキガイ	カブラツキガイ	<i>Anodontia edentula</i>	●				1		NT		
	67		チヂミウメ	<i>Chavania striata</i>	●	●		●	4		NT		
	68	シノサザナミ	ホシムシアケボノガイ	<i>Barrimysia siphonosomae</i>	●				1	VU	NT		
	69		マスオガイ	<i>Gari elongata</i>		●			1	NT			
	70		ミナトマスオ	<i>Gari inflata</i>	●		●		4	VU	VU		
	71		ハザクラ	<i>Gari minor</i>	●	●	●	●	30	NT			
	72		アシベマスオ	<i>Hiatula petalina</i>	●				6	DD			
	73	シジミ	リュウキュウヒルギシジミ	<i>Geloina expansa</i>	●				1	VU	DD		
	74		タイワンヒルギシジミ	<i>Geloina fissidens</i>	●	●	●	●	79	VU			
	75		ヤエヤマヒルギシジミ	<i>Geloina erosa</i>	●	●	●	●	28	VU			
	76	ドブシジミ	オキナワドブシジミ	<i>Sphaerium okinawaense</i>	●				2		VU		
	77	マルスタレガイ	イオウハマグリ	<i>Pitar sulfureus</i>	●	●		●	3	VU	NT		
	78	フジノハナガイ	リュウキュウナミノコ	<i>Donax faba</i>	●	●		●	13	NT			
	79	ニッコウガイ	トガリュウシオガイ	<i>Moerella culter</i>	●	●	●	●	318	NT	NT		
	80		ハスメザクラ	<i>Loxortlypta transculpta</i>	●			●	1	NT	NT		
	81		ヌノメイチョウシラドリ	<i>Sarralina capsoides</i>	●	●	●	●	80	NT			
	82		ヘラサギガイ	<i>Tellinides timorensis</i>	●	●			5	VU	NT		
	83	チドリマスオガイ	イソハマグリ	<i>Atactodea striata</i>	●				7	NT			
	84		クチバガイ	<i>Coccella chinensis</i>	●	●	●	●	77	NT	NT		
	85	オキナガイ	ヒロクチソオリガイ	<i>Laternula truncata</i>	●		●		2	NT	NT		
			小計: 85種			71種	68種	62種	60種	11,407	82種	44種	2種
	その他	1	スジホシムシ	スジホシムシモドキ	<i>Siphonosoma cumanense</i>	●			●	2	NT		
			小計: 1種			1種	0種	0種	1種	2	1種	0種	0種
	付着藻類	1	オオインソウ	オオインソウ	<i>Compsopogon caeruleus</i>	●	●	●	●		VU	VU	
	2		オオインソウモドキ	<i>Compsopogonopsis japonica</i>	●			●			CR+EN	CR+EN	
	3	カワモズク	アオカワモズク	<i>Virescentia helminthosa</i>	●						NT	VU	
	4	チヌシノリ	オキチモズク	<i>Nemalioopsis tortuosa</i>	●	●	●				CR+EN	CR+EN	希少少種
	5	ベニマダラ	ダンスイベニマダラ	<i>Hildenbrandia rivularis</i>	●	●	●	●			NT	NT	
	6	コノハノリ	ホソアヤギヌ	<i>Caloglossa ogasawaraensis</i>	●	●	●	●			NT	NT	
	7		ササアヤギヌ	<i>Caloglossa vieillardii</i>	●			●				NT	
	8	フジマツモ	タニケモドキ	<i>Bostrychia simpliciuscula</i>	●	●	●	●			VU	NT	
	9	フシナシムドロ	ウミフシナシムドロ	<i>Vaucheria longicaulis</i>	●			●			NT	CR+EN	
	10		モツレチョウチン	<i>Boodloopsis pusilla</i>	●		●	●			NT	NT	
	11	シヤジクモ	オウシヤジクモ	<i>Chara corallina var. corallina</i>	●	●					CR+EN	CR+EN	
	12		ジュズフサフラスコモ	<i>Nitella comptonii</i>	●						CR+EN	CR+EN	
			小計: 12種			9種	6種	6種	8種		11種	12種	1種
			合計: 302種			238種	231種	231種	217種	99,580	247種	208種	23種

注) 1. 本表の昆虫類9種、陸産貝類14種、オカヤドカリ類・オカガニ類4種の計27種は、昆虫類(水生昆虫類)、貝類、甲殻類と重複する。一覧表や総計ではこれらの重複した情報は除外したが、確認位置図については重複を除外せずに各区分に記載している。

区分	和名	カテゴリー区分		
		環境省 RL	沖縄県 RDB	その他
昆虫類 (水生昆虫類)	ヒメイトトンボ	NT		
	オキナワサナエ	NT		
	オキナワコヤマトンボ	NT		
	オキナワマツモムシ	NT	NT	
	オオミズスマシ	NT		
	フタキボシケシゲゴロウ	NT		
	オキナワマルチビガムシ	DD	VU	
	オキナワホシシマトビケラ	NT		
	オオハマハマダラカ	NT		
	9種		9種	2種
陸産貝類 (貝類)	アマミクビキレ	VU	VU	
	オイランカワザンショウ	NT	NT	
	カタシイノミミミガイ	NT	NT	
	ウラシマミミガイ	NT	NT	
	ヒメシイノミミミガイ	CR+EN	CR+EN	
	シイノミミミガイ	CR+EN		
	シュジュコミミガイ	NT		
	マキシジコミミガイ	NT		
	クリイロコミミガイ	VU		
	ヘソアキコミミガイ	NT		
	ニワタズミハマシイノミ	VU	VU	
	キヌメハマシイノミ (トリコハマシイノミ)	NT	VU	
	ヒメヒラシイノミ	NT	VU	
	クロヒラシイノミ	NT	NT	
14種		14種	9種	0種
オカヤドカリ類・オカ ガニ類(甲殻類)	オカヤドカリ			国天
	コムラサキオカヤドカリ	NT		国天
	ムラサキオカヤドカリ			国天
	ナキオカヤドカリ			国天
4種		1種	0種	4種
計: 27種		24種	11種	4種

重要な種一覧(5/5)

- 注)2. 沖縄島にはキムラグモ(*Heptathela*)属とオキナワキムラグモ(*Ryuthela*)属が分布しているが、巢の存在を確認したものであり、同定に至らなかったため、キムラグモ類とした。また、環境省レッドリストにおいては、キムラグモ(広義)/*Heptathela kimurai sensu lato*、オキナワキムラグモ(広義)/*Ryuthela nishihirai sensu lato*として共に“VU”で記載されることから、本リストでもキムラグモ類を“VU”として扱った。
3. 沖縄島のキシノウエタテグモ属はシマトタテグモとオキナワタテグモのみが生息し、調査域には両種が分布しており、野外での識別が困難であること、いずれも重要な種(沖縄県RDBでVU)であることから、キシノウエタテグモ属とした。
 4. 「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」で、ケハダヤマトガイに複数の隠蔽種が存在するとして種群として扱ったと記載されたことから、ケハダヤマトガイ種群とした。
 5. 当該調査範囲には、オキナワヤマタニシ(指定なし)とリュウキュウヤマタニシ(環境省VU、沖縄県NT)が生息しているが、両種は外見での判別は困難であることからヤマタニシ属として、リュウキュウヤマタニシの選定基準(カテゴリー)を表記した。
 6. 当該調査範囲には、ホソアシヒダナメクジ科の一種が複数生息しており、これらの判別には生殖器の確認が必要であり、現地での判別は困難であることから、ホソアシヒダナメクジ科として、ホソアシヒダナメクジ科の一種の選定基準(カテゴリー)を表記した。
 7. 当該調査範囲には、キヌツヤベッコウ属の一種(1)とキヌツヤベッコウ属の一種(2)が生息しているが、両種は外見での判別は困難であることから、キヌツヤベッコウ属とした。
 8. 当該調査範囲には、オキナワヤマタカマイマイ、シラユキヤマタカマイマイ、ヤンバルヤマタカマイマイが生息しているが、外見での判別は困難であることから、オキナワヤマタカマイマイ種群とした。
 9. 「第3版 レッドデータおきなわー動物編ー」では、コデマリナギサノシタタリの分布域に沖縄島が含まれていないが、ナギサノシタタリとの近似種も確認されていることから、*Microtralia*属の一種として、コデマリナギサノシタタリの選定基準(カテゴリー)を表記した。
 10. ドームカドカド、デンジハマシノミ、*Microtralia*属の一種、ヒヅメガイの4種は、陸産貝類の調査のみで確認されているが、生態的には水生の貝類に分類されることから、貝類として整理した。
 11. 当該調査範囲には、ヤエヤマイシガメ(環境省VU、沖縄県版NT)が生息しているが、石垣島、西表島及び与那国島以外の地域で確認された同種については、生態系被害防止外来種リストにおいて重点対策外来種に、沖縄県対策外来種リスト(平成30年8月(令和6年3月更新))において防除対策外来種の対策種に、それぞれ指定されていることから、本事後調査報告書では、重要な種として計上していない。
 12. 沖縄島には、ツミとリュウキュウツミが生息しており、野外での識別が困難であることから、ツミ(リュウキュウツミ)として、両種の選定基準(カテゴリー)を表記した。

<p>■ 哺乳類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ 鳥類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>
<p>■ 両生類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ 爬虫類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>

<p>■ 昆虫類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ クモ類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>
<p>■ 陸産貝類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ オカヤドカリ・オカガニ類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>

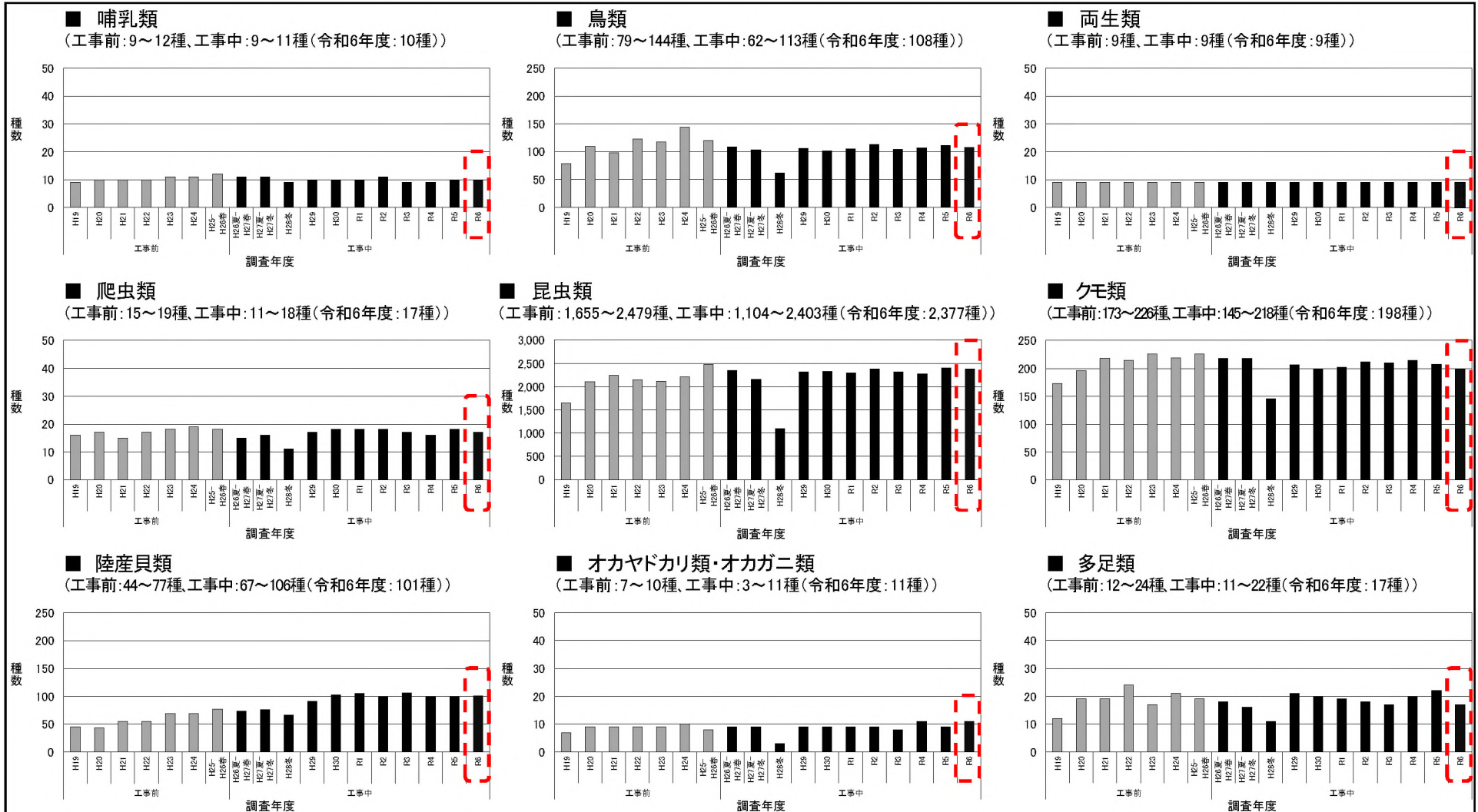
<p>■ 魚類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ 甲殻類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>
<p>■ 貝類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>■ 水生昆虫類</p> <p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>

■ その他	■ 付着藻類
<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>

重要な種の確認位置(4/4)

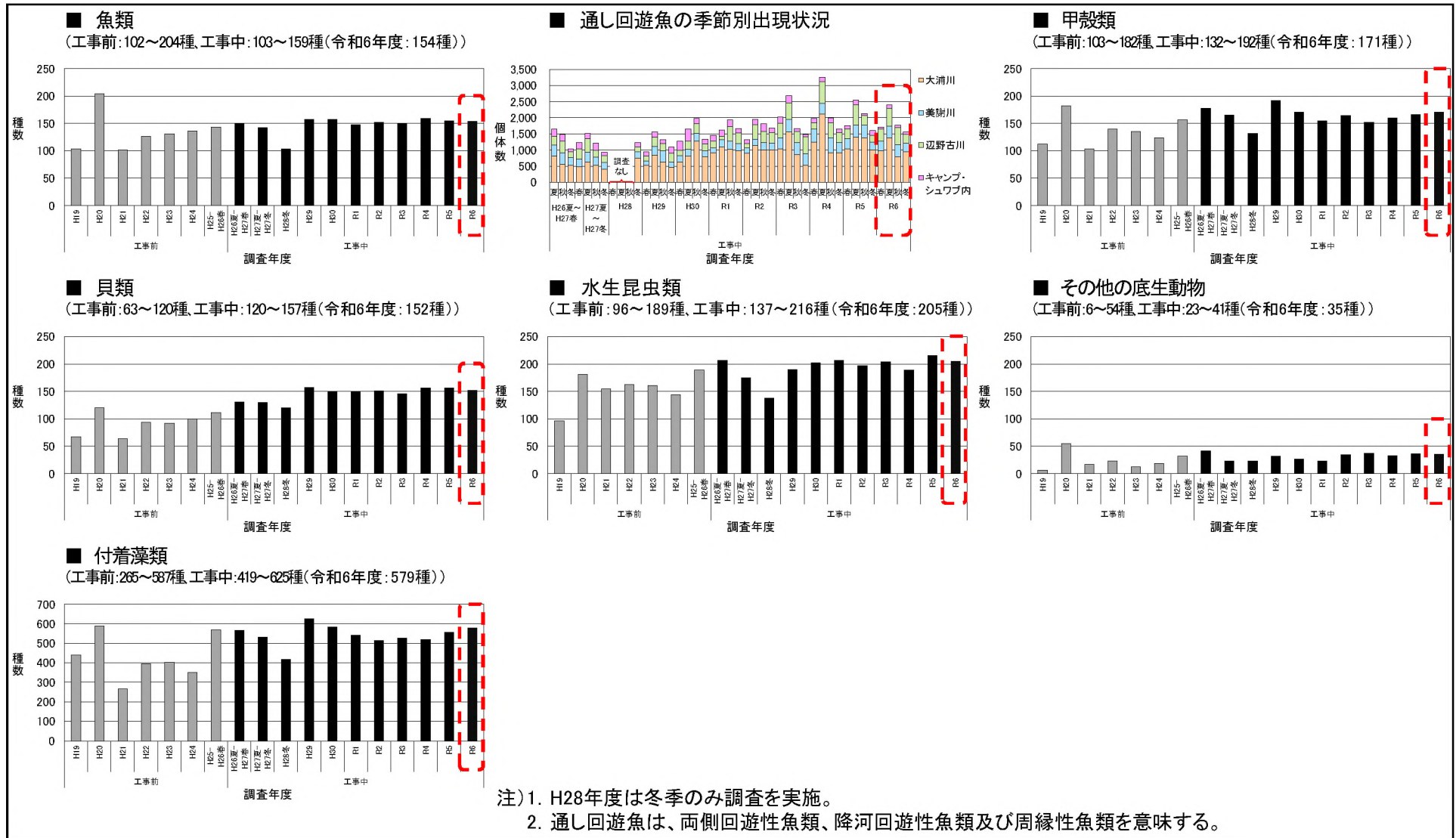
○ 動物相の状況(確認種数)

- ・ 年度ごとに変動はあるものの、工事中の平成26年度夏季～令和6年度冬季の確認種数は概ね工事前の変動範囲内に収まっている。



注) H28年度は冬季のみ調査を実施。

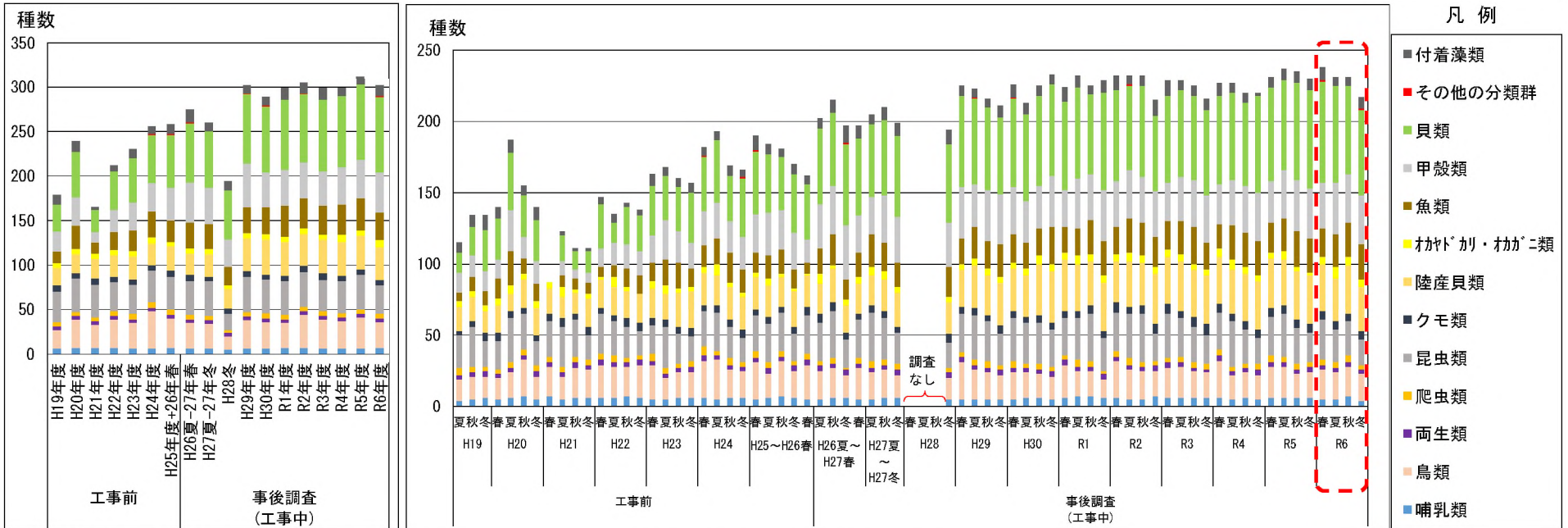
確認種数の比較(1/2)



確認種数の比較(2/2)

○ 動物相の状況(重要な種)

- ・ 工事前の重要な種の確認種数は、哺乳類6~7種、鳥類21~42種、両生類4種、爬虫類4~6種、昆虫類33~38種、クモ類6~7種、陸産貝類20~27種、オカヤドカリ類・オカガニ類5~7種、魚類12~29種、甲殻類12~37種、貝類25~59種、その他の分類群0~1種、付着藻類3~12種であった。
- ・ 工事中の令和6年度の重要な種の確認種数は哺乳類7種、鳥類29種、両生類4種、爬虫類5種、昆虫類32種、クモ類6種、陸産貝類37種、オカヤドカリ類・オカガニ類8種、魚類31種、甲殻類45種、貝類85種、その他1種、付着藻類12種であった。



注) H28年度は冬季のみ調査を実施。

重要な種の確認種数の比較

第9章 対象事業に係る環境影響の総合的な評価

○ 陸域生態系(基盤環境、生態系の機能と構造)

- ・ 動物相の状況では、年度ごとに変動はあるものの、工事中の平成26年度夏季~令和6年度冬季の確認種数は概ね工事前の変動範囲内に収まっている。

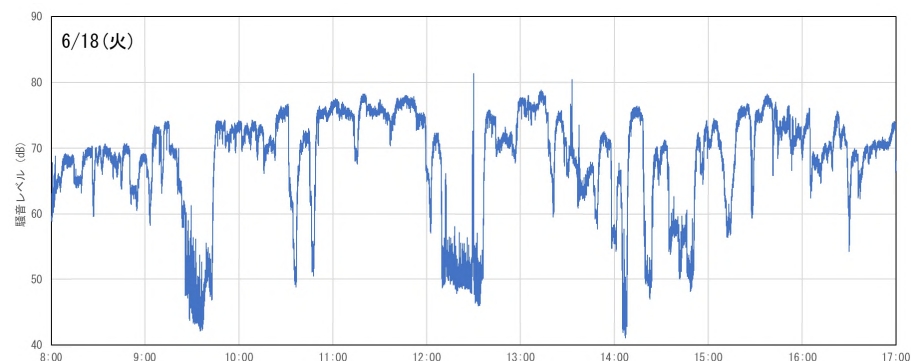
○ 水の汚れ	p. 16
○ 土砂による水の濁り（陸域）	p. 19
○ 土砂による水の濁り（海域）	p. 23
○ 地下水の水質	p. 28
○ ウミガメ類	p. 31
○ サンゴ類	p. 35
○ 海藻草類	p. 49
○ ジュゴン	p. 69
○ 海域生物（トカゲハゼ）	p. 85
○ 陸域動物（陸生動物）	p. 89
○ 陸域動物（河川水生動物）	p. 108
○ 陸域植物	p. 111
○ 陸域生態系（基盤環境、生態系の機能と構造）	p. 114
● 陸域生態系（地域を特徴づける注目種）	p. 129

陸域生態系(地域を特徴づける注目種)

- 建設作業騒音の測定と注目種、重要な哺乳類及び鳥類の繁殖・行動状況※ 重要な種の保護の観点から表示していません。において、令和6年6月4日にツミ(リュウキュウツミ)の繁殖が確認されたことから、建設作業騒音によるツミ(リュウキュウツミ)の繁殖行動への影響を把握するために、営巣箇所で6月に合計3回の建設作業騒音の測定を行った。
- ・ ツミ(リュウキュウツミ)の巣内では3羽の雛(幼鳥)が確認され、親鳥が給餌している様子を複数回確認した。
 - ・ 最大騒音レベル(L_{Amax})は、いずれの測定時においても、70dB以上の値を計測したが、建設作業騒音によるものではなく、セミの鳴音等の自然音によるものであった。また、演習場地区内で営巣しているツミ(リュウキュウツミ)において、巣から逃避するなどの行動はみられず、繁殖行動への影響は確認されなかった。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

建設作業騒音測定地点と工事の実施箇所



建設作業騒音の調査結果(2回目:令和6年6月18日)

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

ツミ(リュウキュウツミ)の繁殖状況(令和6年6月18日)

- ミサゴの生息・繁殖状況: 生息、行動範囲調査を実施した。(令和6年5月~12月)
- ・ 令和6年度は、秋季と冬季に多く確認され、延べ確認数は秋季38個体、冬季41個体であった。
 - ・ 営巣や交尾といった繁殖に関する行動は確認されなかった。



■ 令和6年度春季調査	■ 令和6年度夏季調査
<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>
■ 令和6年度秋季調査	■ 令和6年度冬季調査
<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>	<p>※ 重要な種の保護の観点から表示していません。</p>

ミサゴの確認位置

- ツミ(リュウキュウツミ)の生息・繁殖状況:繁殖、行動範囲調査を実施した。(令和6年4月～7月)
- ・ 令和6年度は、安部区、瀬嵩区、演習場地区、松田区の4地区において計5巢の営巣が確認され、安部区の1巢、演習場地区の1巢、松田区の1巢で巣立った幼鳥が確認された。
 - ・ ツミ(リュウキュウツミ)の営巣が確認された場合には、営巣地から半径250m以内の範囲で関係者の立ち入り制限に努めるなどの環境保全措置を行うこととしているところ、工事箇所(美謝川水路整備区域及び工事用仮設道路整備区域)から最も近い営巣位置までの距離は250mを超えていたことから、環境保全措置を講じる必要はなかった。



雛に給餌する親鳥(安部地区)



幼鳥(演習場地区)

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

ツミ(リュウキュウツミ)の繁殖等確認位置

- アジサシ類の生息・繁殖状況: 生息、繁殖状況調査を実施した。(令和6年5月~10月)
 - ・ 調査を実施した結果、コアジサシ、マミジロアジサシ、ベニアジサシ、エリグロアジサシ、アジサシ、クロハラアジサシの計6種の生息が確認された。
 - ・ 繁殖に関する行動は、エリグロアジサシで7月から8月にかけて確認された。



コアジサシ



マミジロアジサシ



エリグロアジサシ抱卵

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

アジサシ類の繁殖等確認位置

- シロチドリの生息・繁殖状況: 生息、繁殖状況調査を実施した。(令和6年4月～令和7年1月)
- ・ 令和6年度は、嘉陽区、安部区、瀬嵩区、キャンプ地区、辺野古区、豊原区、久志区、松田区の砂浜で延べ840個体の生息が確認された。
 - ・ このうち繁殖に関係する行動は、嘉陽区8箇所、安部区1箇所、瀬嵩区3箇所、辺野古区1箇所、豊原区1箇所、久志区7箇所、松田区3箇所の合計24箇所で、擬傷(親鳥が傷を負って飛べないふりをする事で侵入者の注意を引き、卵や雛から遠ざけようとする行動)する成鳥7個体、卵23個、雛16個体が確認された。
 - ・ 工事区域近傍においてシロチドリの営巣の確認はなかった。



※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

シロチドリの確認位置

- オカヤドカリ類・オカガニ類の移動: 捕獲したオカヤドカリ類・オカガニ類を移動した。(令和6年4月～令和7年3月)
- ・ 移動元のオカヤドカリ類・オカガニ類の捕獲個体数は35,142個体であり、これらを移動した。
 - ・ そのうち殻長又は殻幅が3cm以上の300個体には個体識別番号をつけて移動した。

移動元のオカヤドカリ類・オカガニ類捕獲個体数

和名	移動元						合計
	①	②	③	④	⑤	⑥	
オカヤドカリ	9	4	0	17	1	7	38
ムラサキオカヤドカリ	1,114	802	1,986	5,339	0	1	9,242
ナキオカヤドカリ	2,565	1,768	4,645	5,511	0	0	14,489
オカヤドカリ類 ^{注)}	258	73	9,034	2,007	0	0	11,372
オカガニ	0	0	0	1	0	0	1
合計	3,946	2,647	15,665	12,875	1	8	35,142

注) 微小なため種の同定ができない個体。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

オカヤドカリ類・オカガニ類の移動元・移動先

オカヤドカリ類・オカガニ類の場所別移動個体数

和名	移動先														合計
	※ 重要な種の保護の観点から表示していません。														
	5	16	48	99	103	108	111	146	147	149	150	151	152	154	
オカヤドカリ	7	7	0	1	8	3	0	3	0	0	1	5	1	2	38
ムラサキオカヤドカリ	1,451	1,222	0	338	128	887	1,512	703	0	0	511	1,499	688	303	9,242
ナキオカヤドカリ	2,680	2,499	0	603	492	1,534	1,268	1,506	0	0	832	1,347	1,167	561	14,489
オカヤドカリ類 ^{注)}	1,320	1,325	0	474	532	1,325	1,169	1,973	0	0	658	605	1,449	542	11,372
オカガニ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
合計	5,458	5,053	0	1,416	1,160	3,749	3,949	4,186	0	0	2,002	3,456	3,305	1,408	35,142

注) 微小なため種の同定ができない個体。

○ オカヤドカリ類・オカガニ類の移動先での繁殖状況・移動経路

(令和6年6月～9月)

- ・ 汀線際で確認したオカヤドカリ類・オカガニ類は、オカヤドカリ、コムラサキオカヤドカリ、オオナキオカヤドカリ、ムラサキオカヤドカリ、ナキオカヤドカリ、ヤシガニ、オカガニ、ヘリトリオカガニ、ヤエヤマヒメオカガニの9種であり、そのうち、ヤシガニ、ヘリトリオカガニ以外^{注)}において、繁殖行動が確認された。
- ・ 過年度実施含め個体識別番号を付けたオカヤドカリ類・オカガニ類5,499個体のうち、約100m以上移動したオカヤドカリ類が15個体確認された。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

月別種類別の繁殖確認個体数

和名	令和6年				合計
	6月	7月	8月	9月	
オカヤドカリ	92	15	62	6	175
コムラサキオカヤドカリ	27	1	0	0	28
オオナキオカヤドカリ	0	0	0	1	1
ムラサキオカヤドカリ	1,183	2,049	867	32	4,131
ナキオカヤドカリ	1,436	1,138	672	337	3,583
オカガニ	28	14	25	3	70
合計	2,766	3,217	1,626	379	7,988

注)ヤエヤマヒメオカガニについては、移動経路調査において繁殖行動を確認したが、その個体数までは把握していないため、繁殖確認個体数として計上していない。

移動先別の繁殖確認個体数

移動状況(松田区)の例

和名	移動先														合計
	※ 重要な種の保護の観点から表示していません。														
	5	16	48	99	103	108	111	146	147	149	150	151	152	154	
オカヤドカリ	8	5	49	0	1	25	7	27	20	2	18	8	5	0	175
コムラサキオカヤドカリ	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
オオナキオカヤドカリ	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ムラサキオカヤドカリ	1,182	33	116	33	8	514	48	457	654	551	16	426	41	52	4,131
ナキオカヤドカリ	499	218	202	42	184	266	98	312	306	485	264	368	56	283	3,583
オカガニ	4	1	14	2	3	9	13	9	9	2	1	0	0	3	70
合計	1,693	258	409	77	196	814	166	805	989	1,040	299	802	102	338	7,988

○ ミサゴの生息・繁殖状況

- ・ 1調査あたりの延べ確認数の範囲は、工事前は4~122個体の範囲であり、令和6年度は1~41個体であった。
- ・ 採餌が確認された範囲は、工事前や工事中の過年度の確認範囲と比較しても大きな変化はみられなかった。
- ・ ミサゴは、「改訂版 沖縄の野鳥」(沖縄野鳥研究会、平成22年5月)によると調査地域では渡り鳥(冬鳥)とされており、これまでの調査結果においても、年度によって確認個体数や採餌が確認される範囲が大きく変動する傾向がみられる。
- ・ 営巣や交尾といった繁殖を示唆する行動は、工事前、工事中ともに確認されていない。

ミサゴの確認状況

調査年度	工事前													
	H20				H21				H22					
	春	夏	秋	冬	5月	6月	7月	9月	春	夏	秋	冬		
延べ確認個体数(1調査あたり)	47.5	17	53.5	46	15	6	4	9	4	50	20	122	65	
推定個体数	実施せず								6	4	10	5	22	18

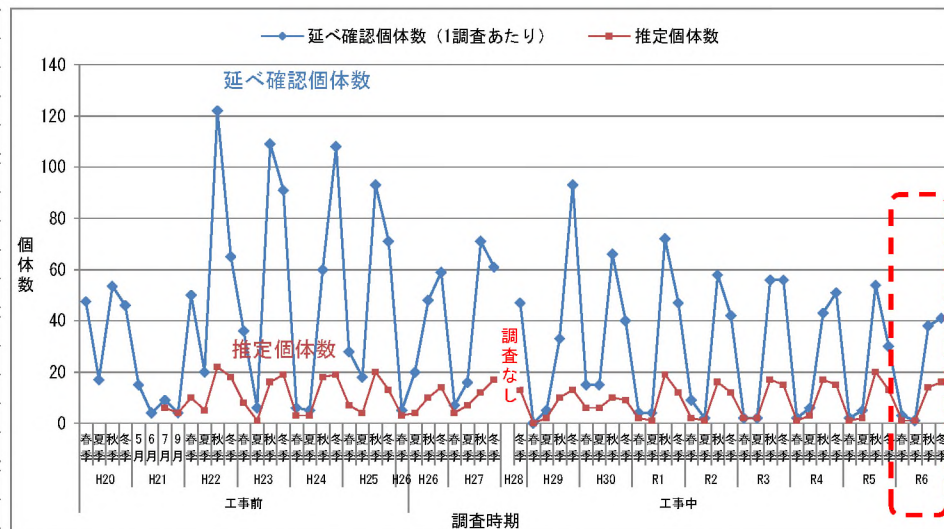
調査年度	工事前											
	H23				H24				H25			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
延べ確認個体数(1調査あたり)	36	6	109	91	6	5	60	108	28	18	93	71
推定個体数	8	1	16	19	3	3	18	19	7	4	20	13

調査年度	工事前				工事中											
	H26				H27				H28							
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬				
延べ確認個体数(1調査あたり)	5	20	48	59	7	16	71	61	-	-	-	47				
推定個体数	3	4	10	14	4	7	12	17	-	-	-	13				

調査年度	工事中											
	H29				H30				R1			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
延べ確認個体数(1調査あたり)	0	5	33	93	15	15	66	40	4	4	72	47
推定個体数	0	2	10	13	6	6	10	9	2	1	19	12

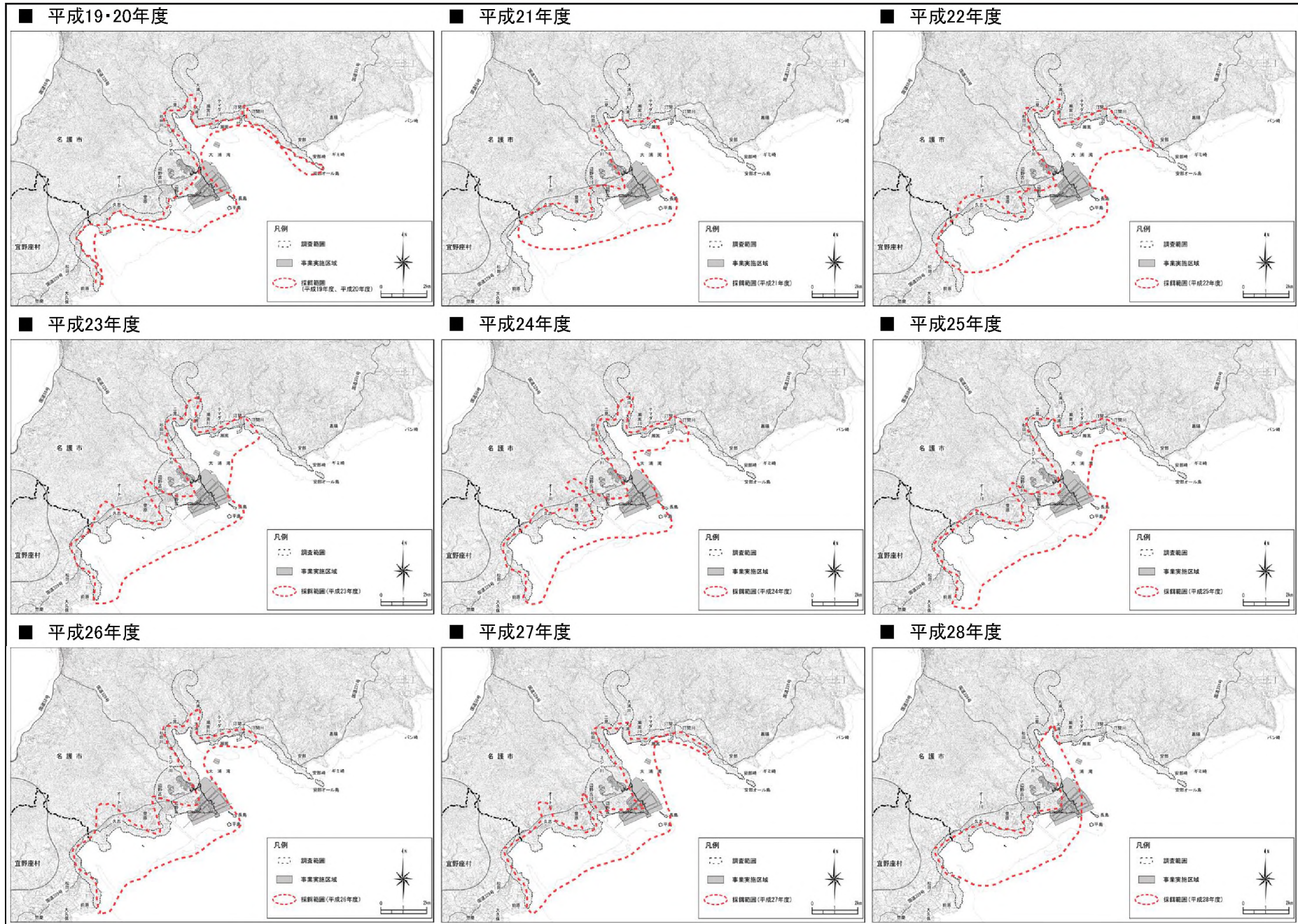
調査年度	工事中											
	R2				R3				R4			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
延べ確認個体数(1調査あたり)	9	2	58	42	2	2	56	56	2	6	43	51
推定個体数	2	1	16	12	2	2	17	15	1	3	17	15

調査年度	工事中							
	R5				R6			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
延べ確認個体数(1調査あたり)	2	5	54	30	3	1	38	41
推定個体数	1	2	20	13	1	1	14	16

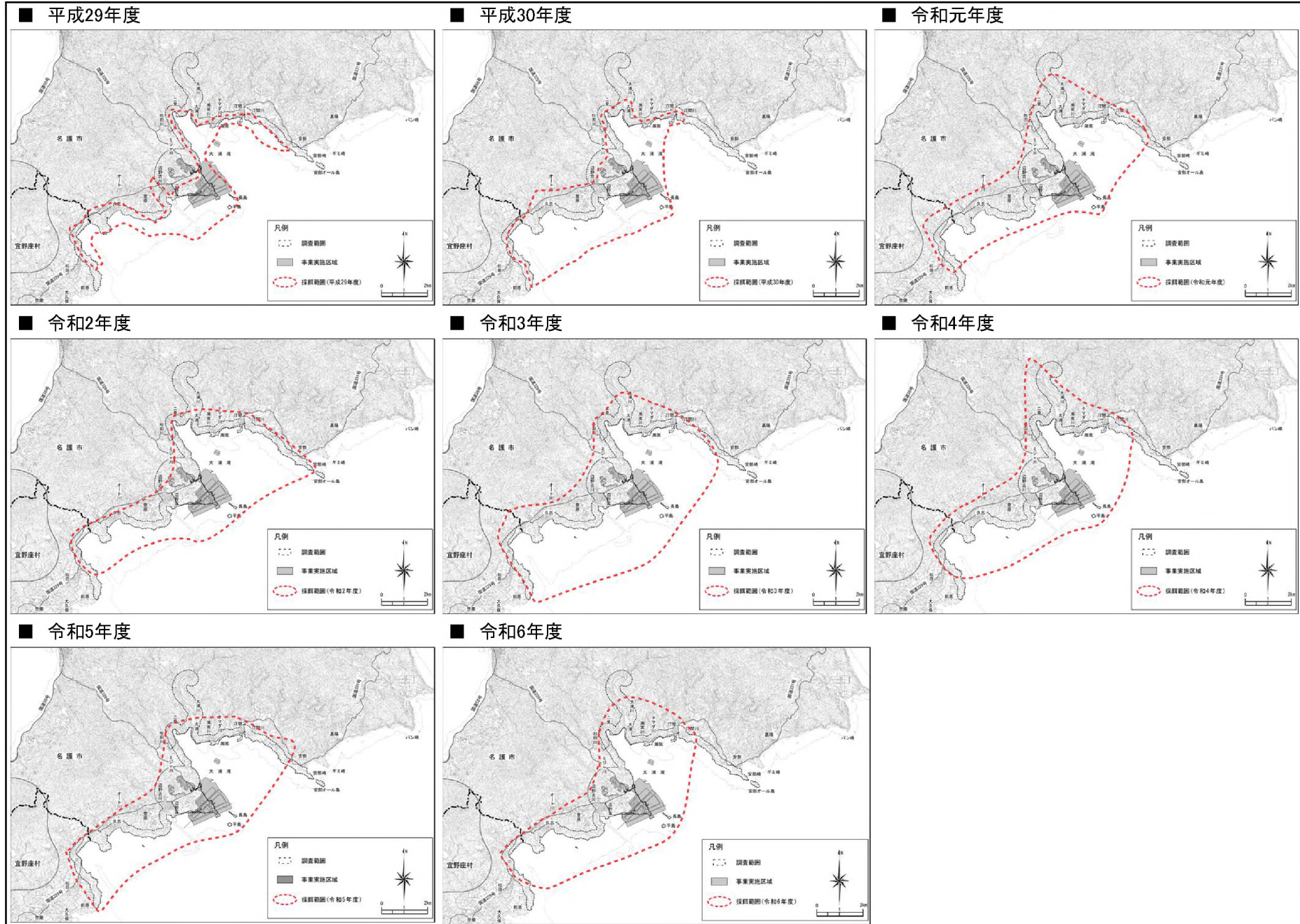


- 注) 1. 成20年度は各季ともに複数回の調査を行ったため、評価書の確認個体数を調査回数で割ることで、他の時期との整合を図った。
 2. 平成21年度は四季で調査を行っていないことから、調査月のデータを記載した。
 3. ミサゴの行動範囲調査は平成20年度から、推定個体数は平成21年7月調査から実施した。
 4. 表中の「-」は、調査を実施していないことを示す。また、本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示している。

ミサゴの確認状況



ミサゴの採餌範囲(1/2)



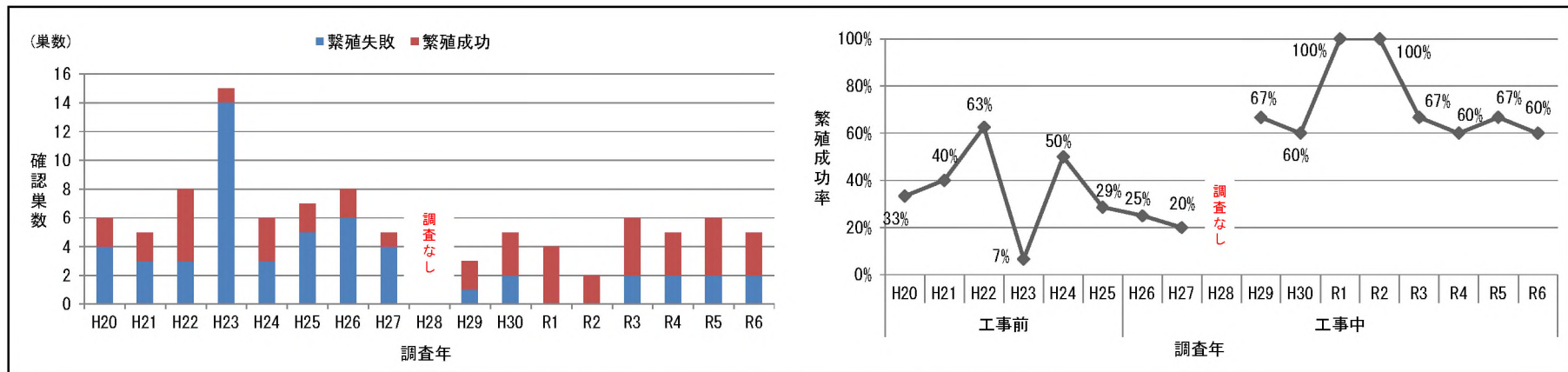
ミサゴの採餌範囲(2/2)

- ツミ(リュウキュウツミ)の生息・繁殖状況
 - ・ ツミ(リュウキュウツミ)の確認巣数は、工事前は5~15巣の範囲であり、令和6年度は5巣であった。
 - ・ 繁殖成功について、令和6年度は3巣(繁殖成功率60%)であり、工事前の変動範囲(1~5巣)内であったことから、営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。

ツミ(リュウキュウツミ)の営巣確認状況

調査年度	工事前							工事中									
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
確認巣数	6	5	8	15	6	7	8	5	-	3	5	4	2	6	5	6	5
繁殖成功巣数	2	2	5	1	3	2	2	1	-	2	3	4	2	4	3	4	3
繁殖失敗巣数	4	3	3	14	3	5	6	4	-	1	2	0	0	2	2	2	2
繁殖成功率	33%	40%	63%	7%	50%	29%	25%	20%	-	67%	60%	100%	100%	67%	60%	67%	60%

- 注) 1. ツミ(リュウキュウツミ)の繁殖状況調査及び行動範囲調査は平成20年度から実施した。
 2. 平成26年7月から工事が始まったことから、平成26年以降を工事中として扱った。
 3. 巣立ち雛や幼鳥が確認された巣は繁殖成功、巣立ちまで確認できずに落巣や営巣放棄等に至った巣は繁殖失敗と判断した。
 4. 表中の「-」は調査を実施していないことを示す。
 5. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示している。



ツミ(リュウキュウツミ)の営巣確認状況の概要

○ アジサシ類の生息・繁殖状況

- ・ アジサシ類の延べ確認個体数は、工事前は253～647個体の範囲であり、令和6年度は134個体であった。令和6年度の繁殖個体数は47個体であり、工事前の変動範囲(5～95個体)内であった。
- ・ その他海域を含めた営巣の確認数の合計では、令和6年度は21巣となり、工事前の変動範囲(5～93巣)内であった。
- ・ 採餌が確認された位置は、工事前、工事中ともに大きな変化はなかった。

アジサシ類の確認状況

延べ確認 個体数	工事前								工事中								確認 範囲				
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	確認 範囲	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3		R4	R5	R6	
クロアジサシ	2	0	0	0	0	2	0	0~2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コアジサシ	25	4	33	13	43	16	21	4~43	11	7		6	12	30	81	42	24	18	23	6~81	
マミジロアジサシ	0	1	0	0	0	2	0	0~2	0	1		2	4	0	3	3	0	11	18	0~18	
セグロアジサシ	0	0	0	0	0	2	0	0~2	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
ベニアジサシ	84	77	215	50	19	171	22	19~215	48	59		17	6	38	21	54	18	24	1	6~59	
エリグロアジサシ	251	481	399	323	191	213	325	191~ 481	168	335		205	133	193	137	56	108	109	91	56~ 335	
アジサシ	0	0	0	0	0	1	1	0~1	0	9		0	0	1	0	0	0	3	1	0~9	
クロハラアジサシ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0	2	0	0	3	0	1	0	0~3	
ハジロクロハラアジサシ	6	0	0	0	0	0	0	0~6	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
アジサシ類	66	5	0	0	0	0	0	0~66	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	434	568	647	386	253	407	369	253~ 647	227	412		230	157	262	242	158	150	166	134	134~ 412	

アジサシ類の営巣確認状況

調査年	コアジサシ																			
	工事前								工事中											
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
営巣場所	安部オール島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査なし
	長島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	御向島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他海域	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		

調査年	ベニアジサシ																			
	工事前								工事中											
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6		
営巣場所	安部オール島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	調査なし
	長島	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	平島	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
	御向島	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他海域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0		

調査年	エリグロアジサシ																		
	工事前								工事中										
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
営巣場所	安部オール島	0	0	0	0	1	0	9	0	0	2	0	1	12	0	5	0	0	調査なし
	長島	8	6	12	2	4	4	29	0	1	0	2	2	0	0	5	0	1	
	平島	0	1	7	3	2	9	34	0	4	9	5	16	11	0	15	9	13	
	御向島	2	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	4	
	その他海域	8	17	17	0	6	4	21	8	4	1	6	5	2	0	3	7	3	
合計	18	27	36	5	13	17	93	8	10	12	14	25	26	0	28	17	21		

調査年	合計																		
	工事前								工事中										
	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
営巣場所	安部オール島	0	0	0	0	1	0	9	0	0	2	0	1	12	0	5	0	0	調査なし
	長島	8	6	13	2	5	4	29	0	1	0	2	2	0	0	5	0	1	
	平島	0	1	9	3	2	9	34	0	4	9	5	16	14	0	15	9	13	
	御向島	2	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	0	1	4	
	その他海域	8	17	17	0	9	4	21	8	4	1	6	6	2	0	3	7	3	
合計	18	27	39	5	17	17	93	8	10	12	14	26	29	0	28	17	21		

- 注) 1. 陸域生態系のアジサシ類調査における確認で、他調査での結果は含まない。
 2. 表中の「アジサシ類」とは、遠方での確認などのため、種の判別ができなかったものを示す。
 3. 繁殖個体数は、求愛行動、交尾、抱卵・抱雛が確認された個体の総数を示す。
 4. 安部崎～天仁屋崎での確認は含まない。
 5. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示している。

- 注) 1. 抱卵及び抱雛を営巣とした。求愛行動や交尾が確認された個体は含まない。
 2. 営巣場所の「その他海域」は、安部崎から松田までの海域のうち安部オール島、長島、平島、御向島を除いた範囲を示す。
 3. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示している。

○ シロチドリの生息・繁殖状況

- ・ 1季あたりの延べ確認個体数は、令和6年度は210個体で、工事前の変動範囲(84~272個体)内であった。
- ・ 繁殖確認地点数は、工事前は3~23地点の範囲であり、令和6年度は24地点であった。工事中の繁殖確認地点数は工事前の変動範囲を上回っており、営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。
- ・ 令和6年度はシロチドリの主な繁殖場所である嘉陽区、安部区、瀬嵩区、辺野古区、豊原区、久志区及び松田区の砂浜で抱卵や雛が確認された。

シロチドリの確認状況

調査年	工事前									工事中									
	H19 (3季)	H20 (4季)	H21 (4季)	H22 (4季)	H23 (4季)	H24 (4季)	H25 (4季)	H26 (1季)	H26 (3季)	H27 (4季)	H28 (1季)	H29 (4季)	H30 (4季)	R1 (4季)	R2 (4季)	R3 (4季)	R4 (4季)	R5 (4季)	R6 (4季)
延べ確認個体数	252	593	1,063	1,088	837	920	950	184	883	866	365	858	844	873	1,025	931	703	650	840
1季あたりの 確認個体数	84	148	266	272	209	230	238	184	294	217	365	215	211	218	256	233	176	163	210
	84~272個体									163~365個体									
繁殖 地点 確認	変更区域	7	2	2	4	8	4	5	繁殖 期 の 調 査 な し	2	繁殖 期 の 調 査 な し	0	0	3	10	9	4	0	0
	その他周辺	16	1	6	9	2	4	6		2		10	9	9	10	6	8	7	24
	合計	23	3	8	13	10	8	11		4		10	9	12	20	15	12	7	24
繁殖 関連 行動	抱卵	○	○	○	○	○	○	○	繁殖 期 の 調 査 な し	○	繁殖 期 の 調 査 な し	○	○	○	○	○	○	○	○
	雛	○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○
	その他	擬傷 交尾	擬傷	擬傷		擬傷	擬傷	擬傷		擬傷		擬傷	擬傷	擬傷	擬傷	擬傷	擬傷	擬傷	擬傷

- 注) 1. 工事前のH19(3季)、工事中のH26(3季)及びH28(1季)は、シロチドリの繁殖期(春季)の調査が含まれず、繁殖状況の確認はなかった。
2. 変更区域とは、代替施設本体、工事前仮設道路、埋立土砂発生区域及び美謝川水路の各区域を示している。
3. その他周辺とは、工事による直接的な影響を受けない区域を示している。
4. 本事後調査結果(令和6年度)は、黄色の網掛けで示している。

※ 重要な種の保護の観点から表示していません。

シロチドリの繁殖確認位置

○ 陸域生態系(地域を特徴づける注目種)

- ・ ミサゴの1調査あたりの延べ確認数の範囲は、令和6年度は1～41個体で、概ね工事前(4～122個体)及び過年度の工事中(0～93個体)の変動範囲内であった。渡り鳥(冬鳥)であるミサゴは、これまでの調査結果においても、年度によって確認個体数や採餌が確認されている範囲が大きく変動する傾向がみられるが、令和6年度の確認個体数及び採餌範囲は概ねこれまでの変動範囲内であり、工事前と同様の傾向にあるものと考えられる。
- ・ ツミ(リュウキュウツミ)の確認巣数は、令和6年度は5巣で、工事前(5～15巣)及び過年度の工事中(2～8巣)の変動範囲内であり、巣立った雛や幼鳥が確認された巣(繁殖成功)の数も、令和6年度は3巣で、工事前(1～5巣)及び過年度の工事中(1～4巣)の変動範囲内であった。また、繁殖成功率でみると、令和6年度は60%であり、工事前(7～63%)及び過年度の工事中(20～100%)の変動範囲内であったことから、ツミ(リュウキュウツミ)の営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。
- ・ アジサシ類については、これまでに繁殖が確認されたコアジサシ、エリグロアジサシ及びベニアジサシの営巣(抱卵や抱雛)の確認数は、令和6年度は21巣で、工事前(5～93巣)及び過年度の工事中(8～29巣:令和3年度の0巣を除く)の変動範囲内であり、営巣活動への工事の影響は確認されなかった。また、採餌が確認された位置は、工事前、工事中ともに大きな変化はなかった。
- ・ シロチドリ1季あたりの延べ確認個体数は、令和6年度は210個体で、工事前(84～272個体)及び過年度の工事中(163～365個体)の変動範囲内であった。これまでの繁殖状況をみると、令和6年度の繁殖確認地点数は24地点で、工事前(3～23地点)及び過年度の工事中(4～20地点)の変動範囲を上回っており、シロチドリの営巣活動へ工事の影響は確認されなかった。
- ・ オカヤドカリ類・オカガニ類については、令和6年4月から令和7年3月に海浜部を中心とした工事区域において総個体数35,142個体のオカヤドカリ類・オカガニ類を捕獲及び移動した後、移動先において、繁殖(放仔)行動が確認された。月別(9月)の繁殖確認個体数は、令和6年度は379個体で、工事前(209個体)より多くなっていた。

まとめ

- 以上のとおり、土砂による水の濁り(陸域、海域)、地下水の水質、海域生物・海域生態系、陸域動物、陸域植物、陸域生態系のいずれについても、事業の実施に伴う影響を最小限に留めることができ、さらに、対象事業の実施の状況により講じた環境保全措置(水の濁りの発生抑制、ウミガメ類の産卵場創出、ウミボスの移植、海草類の生育範囲拡大、オカヤドカリ類の移動等)により、事業の実施に伴う影響を可能な限り低減または代償ができていると考えられる。そのため、引き続き、現在の環境保全措置を継続していくこととする。

- また、今後も事後調査を継続し、本事業による環境変化及び環境影響の把握に努めていく。